



The
2008
annual report

2008.1.1
▼
2008.12.31



医療法人 セント・ルカ

セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

目次

卷頭言	1
一年を振り返って	
心理専門相談室	2
看護部	4
培養室・検査室	6
受付	8
情報処理室	10
厨房	12
診療統計	
外来患者および妊娠結果の内訳	14
外来・入院数	16
入院数	17
妊娠数	18
初診後妊娠までの期間	21
腹腔鏡検査後妊娠までの期間	21
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率	22
ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠	22
35歳未満・体外受精1回目の妊娠率	23
ART(生殖補助医療)による妊娠	23
ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況	24
異常児の詳細	24
セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ	26
行事一覧	27
論文一覧	37
著書(共著)一覧	37
院内活動	
セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明	40
スタッフ配置	43
病院概要	44

卷頭言

宇津宮 隆史

この1年で最も印象に残るのは、開院以来の妊娠数が5,000件を超えたこと、そして、アメリカ生殖医学会（ASRM）での優秀賞受賞であろう。ただ、妊娠といつても流産やIUFDも含まれるため、そのままの数字にはならないが、ひとつのエポックといえよう。この数字がさらに効率よく増加するよう願うものである。

さて、最近では国際学会に参加しても、以前のような大きなショックを与えられるほどの技術や成績がそれほど見られなくなった。これはもう、日本のレベルが十分に世界のレベルに届いた上、日本の技術が世界に先駆けている証と考えられる。その例としてVitrification（ガラス化）法がある。日本では、今ではどこでも当然のように、このガラス化法が用いられている。しかし欧米では、この方法を採用するのに四苦八苦しているようである。そして、今回のASRM優秀賞受賞である。何の関係もない、われわれの発表を選んでくれた、アメリカの懐の深さに感心した。また、そのように評価してくれたことに対して、責任を自覚せざるを得ない。

今、そのように生殖医療に限っていえば、世界に伍するほどの実力を得たわれわれであるが、振り返って、生殖医療の本質を考えねばならないと思う。それは、生殖医療はすなわち、周産期医療・生育医療に直結するということである。生殖医療の本質は、患者さんが、一人の健康な赤ちゃんを得られるよう、極力努力するということである。そのためには、ハイ・リスク妊娠・分娩は避けねばならない。そして、健康な子供が健康に育ち、よりよい社会人として活躍する日を迎えるのが、生殖医療の最終的な目標である。そう考えれば、生殖医療とは「生まれて幸せ」と感じてくれるよう、子供の誕生の手助けをすることである。よって、非配偶者間医療も、その子の視点に立った医療でなくてはならない。そして、安全で良質の生殖医療を目指さねばならない。JISARTの施設審査基準を参考にし、より高度の技術と安全性、効率性を目指して、生殖医療を進めなければならない。それには、われわれ自身の不斷なる学習と技術の向上、患者さんへの啓蒙、教育、社会への働きかけなどが重要となる。それらの、一見生殖医療とは直接関係がなさそうに見える項目であっても、じっと考えてみれば大いに関係があることがわかる。また、そのような立場、責任がある位置にいることを自覚しなければならない。

最近では、医療環境の劣化が叫ばれ、いろいろな意見が交錯している。その中で、われわれの本当になすべき責務を果たさねばならない。それにはいくつかの痛みを伴うこともあろう。が、これという道を進むに如くはない。

一年を振り返って

心理専門相談室

この一年間を振り返ってみると、心理相談室の役割は、広がりと深さを求められる時期に入ったことを感じた年であったと実感しています。

2008年、生殖医療の中では、卵子提供による非配偶者間の体外受精が、JISARTの2施設によって実施されたことが公表されました。

自分たち夫婦の子どもが、どうしても授からない状況における当事者の思いは、本当に計り知れない苦しみと悲しみで溢れています。当院でも、治療終結におけるサポートは、真剣に向き合うべき課題として、院長先生はじめスタッフ全員が取り組んできました。その一環として、今年1月には、第5回「ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会」を開催しました。この会では、お話してくださった患者さんも、参加された患者さんも「自分たちにとって子供とは…」「自分の生きる意味は…」「夫婦とは…」と真剣に考えておられる姿が印象的でした。不妊や不妊治療は、当事者にとって思いがけない出来事で、苦しい状況であることは間違ひありませんが、ご夫婦で真剣に向き合ってこの問題に取り組んでこられたからこそ得られるものがあることを、改めて教えていただきました。

心理学の発達理論では、個人も家族も「結婚、子育てを経て成熟する」という発達段階が一般的ですが、実際の出産や子育てを経験しなくとも、個人や夫婦として成熟していくことができると実証してくださっていると頭が下がる思いです。その苦しい過程に寄り添い、少しでも支えになれるようにとの思いを新たにしました。

2008年度の心理臨床学会と発達心理学会で、生殖医療に携わる臨床心理士が集まって行った自主シンポジウムにおいて、私は「子どもを得られないまま不妊治療を終結していく患者さんの心理とサポート」をテーマにお話をさせていただきましたが、その時も、子どもがいてもいなくても人は成熟しうる、「新しい家族形態」や「新しい発達理論」が、今こそ望まれているのではないかとの結論に達しました。

自分たち二人の子どもをもつことが難しい状況で、夫婦二人がそのことと真剣に向き合い、その後の選択肢を考えることは、とても大切なことだと思われます。その中で、非配偶者間の生殖医療を選択する方たちもおられるかもしれません。その時、私たち生殖医療に携わる者、特に心に寄り添う心理士は何ができるのか、何をしなければならないのか、患者さんだけではなく、生まれてくる子どもさんにとっても、幸せな選択となるにはどのようなことができるのかを考え、課題の大きさと重さに圧倒されつつも身の引き締まる思いです。

一方、治療段階が進んだ患者さんだけではなく、いろいろな悩みをもった患者さんがたが相談室に来てくださいます。そのような相談室にみえる患者さんの中では、最近、夫婦生活が少ないと、相手が何を考えているのか分からぬなど、夫婦関係の希薄さに悩む方が増えているように感じます。治療を始めて間もない方だけでなく、治療段階に関係なく、お互いに気を遣いながら、本音で触れ合うことをためらっている患者さんがいらっしゃいます。子どもがなかなかできないことで、お互いに傷ついているのがよく分かっているだけに、これ以上傷つけたくないと思うこと、そのことを話しても自分の期待しているような反応が返って来ないために余計傷つくのを恐れていること、夫婦の根幹に関わる問題に直面することなど、いろいろな理由があると思われますが、やはり、夫婦のつながりが弱いと感じている時には、不妊治療はとても辛いものになります。夫婦のコミュニケーションのお手伝いも、心理相談室の大切な役割の一つと考えて取り組んでいきたいと思います。

最近、院長先生や看護師さんの紹介で来室してくださった患者さんから、「以前からカウンセリングに来てみたいと思っていたけど、なかなか勇気が出なくて、今日は勧めていただいたのでやっと来れました」と話してくださった方が何人かおられました。まだまだ患者さんにとって、心理相談室の敷居は高いことを反省し、来室しやすい相談室にしていくことを課題として取り組んでいきたいと思います。

心理相談室では、これからも患者さんが安心して治療を受けていただけるよう、この治療が夫婦の絆をより強く結びなおす機会となりますよう、子どもがいても、いなくても続く人生を考える場として、今後も患者さんの心に寄り添う相談室でありたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願ひします。

上野 桂子



一年を振り返って

看護部

桜の開花と共に、遠くの山々の裾野が、山桜で薄桃色に染まり始める頃、当院では春の恒例行事となっている「お花見」が行われます。大分市に流れる裏川に沿って、650本以上植えられたソメイヨシノがこの頃満開を迎えます。この桜の下の平和市民公園がお花見の場所となるのですが、昼過ぎから場所取り、午後3時からは炭起しが始まり、イスを用意したり材料を並べたり、参加者皆が揃って会が始まる夕方には、この会を担当しているレクリエーション係りの元で、テキパキと仕事をこなし準備は完了しています。今年は天候に恵まれた上に、なんと、猪肉と鹿肉の差し入れも飛び込み、初めて見る猪の子供の丸焼きに、あちこちで歓喜の声が上がり会は大盛況でした。日頃お世話になっている先生方や業者の方々、そして先生方のご家族も一緒に、炭火を囲んで本当に珍しくて美味しい肉をほおばりながら話が弾みました。こんなときのお酒は格別においしいのでしょう。満足この上ないという顔、顔でいっぱいでした。お花見の会は、それぞれの絆を強くすると共に、親しみも沸いてきます。大人のまわりではしゃいでいる子供の成長を目の当たりにすると「本当に1年経つのは早いな」と実感しました。

さて、看護部の1年を振り返ってみました。2008年4月にJISARTの3年目の施設認定審査、7月にISO9001更新外部審査を受け、いずれも高い評価をいただき更新できました。ISO審査では、3年前の不適合に対する是正確認が行われ、「テーマを決めて内部監査を行う事の是正改善はなされているが、もっと内部監査に力を注ぐこと」との意見を頂きました。品質管理責任者として、内部監査の強化に努めていきたいと思います。

今年もISOの院全体目標に「質の向上と安全管理」を掲げ、それに基づいて看護部部署目標、個人目標を策定し、動き始めています。個人面接も始めました。スタッフそれぞれの目標をサポートしつつ、安全管理という意識を組織全体で捉え、体制を確固たるものとし、更に慣習化する努力が必要と考えます。今年の2月に香川県で、生殖医療の現場では絶対にあってはならない医療事故が発生し、全国報道されました。生殖医療施設においての安全管理対策の見直しと徹底は急務となりました。

院長からの提案を契機に、看護部では予防医療に着眼し、2008年9月から、患者さんに対し体重指導を始めました。まず、外来に「BMIが26.4以上の方は治療、妊娠、出産に支障を来す恐れがありますので治療はしません」という掲示を行い、初診時の患者さんに体重の測定を始めました。次に、患者さんに同意を頂いた上で、治療に入る前に体重を減らす指導（体重の記録）を行っています。周産期医療としても、まず、ハイリスク妊娠を防ぐ必要があります。そのためにも「妊娠する前に健康な母体を作りまし

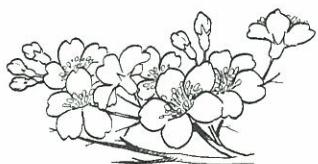
よう」と、各教室や講座で呼びかけています。

また、多胎妊娠の予防から考えても、第64回アメリカ生殖医学会で当院が優秀賞を受賞し、世界中の専門医から高く評価された「受精卵の呼吸量測定」は、1個胚移植に大きく弾みをつけ、多胎妊娠の防止に繋がっています。この賞を頂いた事で、当院が今までに行ってきた研究や仕事内容に間違いはなかったと確信しました。「今まで研究を続けて良かった」と嬉しさいっぱい過ごした12月に続き、今度は、2009年1月に看護部も賞を頂きました。第6回日本生殖医療心理カウンセリング学会でポスター発表を行った「治療継続のサポートのあり方ー初診時から半年以内ー」が優秀賞を受賞しました。その発表より、初診から約2か月（卵管造影後）で治療をやめてしまった患者さんが32%いることがわかりました。「どうしてやめてしまったのか」等の理由を調べる為の質問紙を現在作成中です。また治療の期間の目安を2年位と考えている人の方が治療を継続出来ている事から、初診時のオリエンテーションに治療期間の目安についてのお話を加える事にしました。

また看護部では、院長が行う「新患教室」や「体外受精教室」「赤ちゃん～今ならきっと授かる～講座」は勿論のこと、看護部主催の患者さんの会をサポートし続けること、そして患者さんから頂いた意見や問題点を最も良い形で解決策として、患者さんにお返しできるような努力をすることが必要です。第66回日本生殖医学会九州支部会で、オリーブの会（体外受精をされている40歳以上の方の会）の記録をまとめて発表させて頂く事となりました。2009年1月末には、第5回「ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会」を開催しました。お話をされた元患者さんの夫への労いの言葉も聞け、今は二人の生活でも幸せですとの言葉も頂きました。夫婦二人の子供を望みながらも妊娠に至らない方々の苦しみは、推し量れないほど深いものと思われます。看護師としてできること、看護師だからできる事を考え直しています。

4月半ばの日曜日の朝、「天皇皇后両陛下のご結婚50年を迎えて」の記者会見の様子がテレビで放映されました。お二人とも感謝の思いがいっぱい、今は感謝状を贈りたいと慈愛にあふれたまなざしで答えておられました。そして陛下は皇后さまに対して、「家族を大切にして私に寄り添ってくれた事を嬉しく思います。」とも話されておりました。子供のいる家族を夢見て治療を頑張り続けたが妊娠に至らず、夫と二人の生活を選ばれた方々も、いずれは、「お互いに感謝状を贈ります。」と心からそのように思える日がくることを、私たちは願っています。その為に今できる事を、全員で取り組んで行きたいと思います。

指山 実千代



一年を振り返って

培養室・検査室

2008年から今現在を思い返してみると、最も印象深く思い出されるのは、やはり、アメリカ生殖医学会で優秀賞をいただいたことに尽きると思います。これは、山形大学大学院理工学研究科准教授 阿部宏之先生との共同研究のもと、受精卵1個1個の呼吸量を測定し、数値化するという技術の臨床的有用性についてのポスター発表でした。これまで、受精卵の評価は、唯一、形態学的分類によるものに限られていきましたが、この測定装置で呼吸量を調べてみると、意外なことが分かりました。それは、最も形態が良好で胚移植に選ばれていたような受精卵でも、呼吸量が低い場合があるということでした。これまで私たちが考えていた常識的なとらえ方に疑問を提示されたような、大変興味深い知見でした。

また、臨床を視野に入れて検討を加えてみると、呼吸量測定による受精卵への侵襲はなく、臨床の現場で誰でも簡便に測定することができること、さらに、従来の形態評価に加え、呼吸量評価を行うことで、患者さんが良好な受精卵を複数個持っている場合、そのうち最も着床率の高いものを選び、それを無傷で患者さんの子宮に移植することができる可能性が高くなることが分かりました。

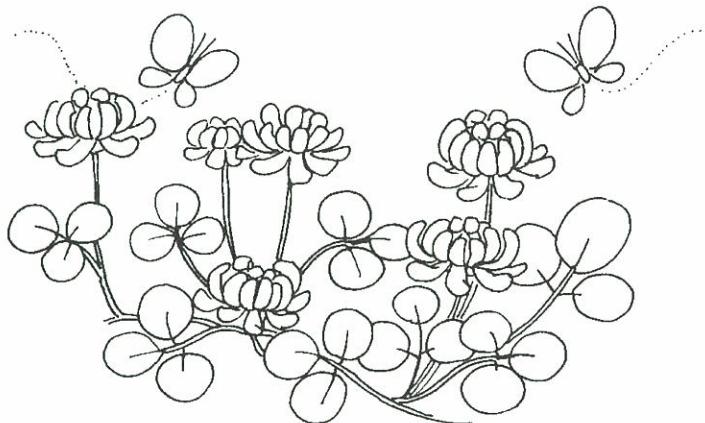
これまで、海外の学会へ参加させていただく機会が何度かありましたが、いつも、土俵の外にいる感覚を拭うことができずにいました。しかし、この受賞をきっかけに、もっと自信をもって患者さんの利益（赤ちゃんを授かること）に直結するような、まわり道であっても地道な研究をますます進めていこうという前向きな姿勢を養うことができました。これが、私たちが今回の受賞で得た一番の賜物であったと思います。

受賞が2008年一番のトピックであったことは間違いないですが、他にも様々な方面での研究を進めてきました。第26回日本受精着床学会学術講演会では、東北大学未来医工学治療開発センター准教授 有馬隆博先生との共同研究「不妊治療後の流産時に得られた胎盤絨毛におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」についての発表が世界体外受精会議記念賞候補に選ばれました。体外受精・顕微授精が決して珍しい不妊治療ではなくなりました今日ではありますが、問題意識を持ってルーチン業務を行うことを怠ってはいけないと考えています。本学会では、PGDに関するフリートークセッションの進行役、シンポジウム、リスクマネジメントに関するワークショップの演題など、いくつものご依頼を受け、培養室のスタッフが複数の役を掛け持つこともあり、大変充実したものであると同時に、当院から発言することが、日本中の多くの施設に多少なりとも影響を与えていたということを実感することとなりました。2009年は、当院にPGDの技

術研修のため、他施設から培養士の方がいらっしゃったこともありました。こうして PGD の技術を共有し、より確実で安全な診断のため、もっと技術を磨きたいと思います。

これから、晩婚化、少子・高齢化が加速し、不妊を訴えて来院される患者さんの事情はますます深刻になってくることだと思います。4月に来県され、第29回大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会にてご講演された鈴木秋悦先生が、「このような深刻な患者さんをいかにして救うか、そのためには、いつも新しい技術を進めて行くだけではなく、それと同時に、基本をおさなりにせずしっかり学ばなければならない。」とおっしゃっていました。その言葉を培養室スタッフひとりひとりが心の中に掲げ、これからまた1年努力していきたいと思います。

大津 英子



一年を振り返って

受付

当院の正面玄関の横には、小さいですが、すてきなガーデニングスペースがあります。そのガーデニングスペースを利用して、私たち受付は、情報処理室の職員と一緒に、年2回、ガーデニングを行っています。去年の秋には、7人のスタッフで、春になると満開になる花々を思い浮かべながら、約一日がかりで50鉢以上のプランターに球根や花苗を植えました。今まさに、その庭にはチューリップやパンジー、アリッサムなど、たくさんの花が満開に咲いています。患者さんからは「ガーデニングのお花がとても綺麗で心が癒されます」など、暖かいお言葉を数多く頂き、とても嬉しく思います。私たちが心を込めて手入れしたお花を見て、少しでも患者さん的心が癒されればと思い、これからもガーデニングを続けていきたいと思います。

受付トップとして2年目。今年も、とても学ぶことの多い有意義な一年でした。

2008年6月には、JISART第1回事務部門教育セミナー・第6回JISARTシンポジウムに参加させていただきました。事務部門教育セミナーでは、40名ほどの事務スタッフが集まり、他施設の状況を詳しく伺うことができました。ディスカッションでは、「安全管理委員会報告について」という内容で発表もさせていただきました。発表するにあたり、過去の「ヒヤリ・ハット」報告をカテゴリー別に分け、詳しく見たところ、とても単純な「間違え・見落とし」が多く、日々の業務を改めて考えさせられました。今年の第2回事務部門教育セミナーにも、受付から2名参加させていただく予定です。今回のセミナーでは、受付スタッフとしての患者への関わり方として、患者背景・患者心理について学びたいと考え、他施設ではどのような関わり方や対応、取り組みを行っているかを聞き、ルカ職員としての取り組みを考え、今後の受付スタッフの糧として勉強したいと思います。

2007年に入職した2人の新人も、今年2回目の春を迎えます。今年は、もう一歩上に進んでもらいたく、今回のセミナーで学んだ事をしっかりと伝え、気づきを忘れず、気の利く、患者さんの心に寄り添える受付を目指したいと思います。

2008年10月より、診療報酬明細書のオンライン請求システムを導入しました。オンライン請求のメリットといえば、まず、支払基金の受付時間の延長です。土・日・祝日を含め21時まで請求が可能になりました。次に、レセプトの事前チェックが可能になったことです。受付・事務点検ASPの利用により、不備等のある請求データを事前にチェックできるようになり、返戻レセプトが最少でおさえられるようになりました。そ

して、紙レセプトの搬送と比較して、安全性が高くなりました。しかし、上記のようなメリットがある一方、オンライン請求システムの操作が不慣れなことと、スタッフ間でメディコム入力の統一が出来ていないためにエラーが多く、まだまだ四苦八苦しているところです。今後は、返戻レセプトの枚数削減を目指し、軌道にのせたいと思います。

ISO 運営に関しては、2009 年 4 月から、教育チェックリストを職員全員で使用するようになりました。チェックリスト自体は、入職から 2 年目までに習得すべき項目が記載されていますが、勤続 2 年以上のスタッフも、職員レベルの底辺が揃う事を期待して、全職員で運用する事としました。これにより、職種を超えてスタッフ全員の基礎知識が各分野で揃う事と、新人が誰に指導を受けても同一な指導を受けられる事を期待しています。このチェックリストは、各自で責任もって運用するような仕組みになっていますので、新人がこのチェックリストを使用することにより、自分で他部署の責任者に教えを請いに行かなくてはならず、部署間の意思の疎通の向上や、新人の自覚向上にも繋がる事を期待しています。

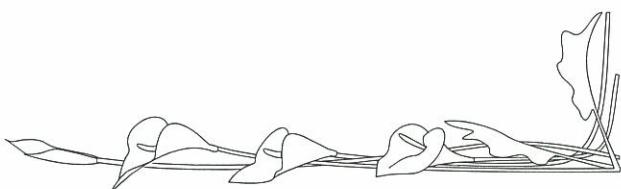
最後に 2008 年度の不妊治療助成金の総件数が出ましたのでご報告いたします。

	人数	申請回数	助成金額
大分県	108	173	15,684,668
大分市	195	294	42,590,693
他県	5	8	800,000
県と市両方	51	61	11,194,236
大分市以外	1	1	100,000
合計	360	537	70,369,597

2008 年度に助成金を申請した 360 名（申請回数：537 回）のうち、61 名（70 回）は IUI（人工授精）、299 名（467 回）は高度生殖補助医療を受けられています。

不妊治療が保険適用になる日が一日も早く訪れますように、署名活動を、活発に続けて行きたいと思います。

越名 久美



一年を振り返って

情報処理室

2008年を振り返ると、この一年もまた私たちにとって、心に残る年となりました。開院当初からの、当院の懸案事項でありました「正しいデータを患者さんの元に」という想いから、日本産科婦人科学会倫理委員会が行っておりました、ボランティアベースでのデータ報告を、当院では毎年かかさず行ってまいりました。

2007年より詳細な報告が義務化され、一括登録を利用して報告を行っておりましたが、個別登録の経験が無ければ、よりよいシステムになるための提案が出来ないと考え、2008年は業務の合間を縫って個別登録を行い、一括登録と個別登録のメリットデメリットを考えてきました。そんな私たちの地道な活動が認められたのか、3月には「一括登録の継続について」日本産科婦人科学会へ要望書（4施設連名）を提出することができ、さらに、7月には各施設から有志が集まり、現況や改善策を話し合う場を設け、施設ごとの入力状況の差と不都合な点を話し合い、8月の第26回日本受精着床学会では、「日産婦指導の個別調査に対する各施設の現況と問題点」という議題にて、フリートークセッションが行われ、短い時間でしたが有意義なディスカッションに参加することができ、データ登録・集計の大切さ、大変さを考える事の出来た良い一年となりました。

患者さんが知りたい正しいデータを提供したい。しかし、そのためには個別データの収集と入力が必要で、そのための職員が必要となり、折り合いをどこでつけるのかという壁にぶつかってしまいます。当院では、院長の英断により、情報処理室が3人体制で動いています。そのため、個別登録も、患者さんからの出産報告も遅延無く入力することができ、さらに、年に一度、出産報告の無い患者さんには、分娩施設へ調査依頼のお手紙を発送して、不足分を補っています。しかし、当院が特殊なのであり、他施設には登録専用に派遣職員をお願いしているところや、職員が業務終了後に遅くまで残って入力している施設もあります。このような現状を踏まえ、これからも現場からの意見を出し続け、よりよいシステムに育つよう協力していきたいと考えています。

当院に入職して、山路が2年、平松が5年、工藤が9年を越え、山路が新人を卒業、平松が中堅を卒業し、素晴らしいチームワークを築けています。全員が職務内容を理解する事で、お互いを補い合う事ができ、セント・ルカ産婦人科の裏方として、しっかりと基礎を固めていけるように、そして誰が何を頼まれても対応できる事を目標として業務を進めていきたいと思います。そして、経験年数が増すごとに、私を含め、スタッフ一人一人の生活環境が変化していきます。大切なスタッフの生活環境を考慮しながら、長く勤めたいと思える環境を作っていくことも、大切な仕事のひとつと思っています。

情報処理室は、院内の教育・推進委員会に2名在籍しています。昨年まで1年間かけて教育・推進委員会で練りに練った教育チェックリストも、やっと軌道に乗せられるところまでやってきました。2009年からは、新人だけでなく、スタッフ全員で運用する事により、チェックリストの過不足のチェックも行う事ができます。

このチェックリストは、セント・ルカ産婦人科スタッフとして最低限クリアしなくてはならない知識レベルを時期ごとに決めており、その中には、看護部、ラボ、受付、心理相談室、情報処理室の各部門から他部門スタッフへ向けた、他部署に理解していく欲しいと思われる内容を、基本チェックリストとしてふんだんに込めて作成し、その上に部門別の内容を追加する事により、内容の濃いチェックリストとなっています。

セント・ルカ産婦人科スタッフとしてクリアしなくてはならない、経験月（年）数別の最低クリアレベルを決めることにより、スタッフ全員が共通の基礎知識を持った上で、それぞれの分野で、力を伸ばしていくという事を、念頭において作成したチェックリストの成長と、それを使ったスタッフ一人一人の成長を楽しみに、これからも広い視野を持って、教育・推進委員としても努力していきたいと思います。

工藤 由香



一年を振り返って

厨房

昨年、大先輩が引退され、新人も入り、三人で無我夢中でやってきたこの一年は、あつという間に過ぎてしまいました。

そして先月、何かあったときはいつでも手伝ってくれていた先輩も退職を迎え、これで、ついに完全に二人きりで仕事をする日がやってきました。不安はつきませんが、体力勝負でがんばらなければと身の引き締まる思いです。

先輩方から受け継いだ大切な年間行事。

その度にお膳を飾ってくれた食材たち・・・

たくさんの患者さんに食べてもらえてよかったです。

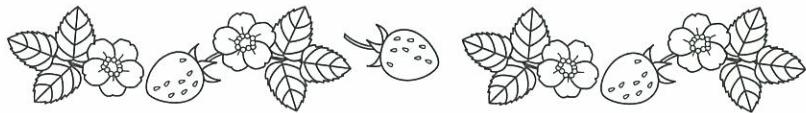
普段はなかなか患者さんと直接関わる機会のない私達ですが、普通食を食べてくれる患者さんはもとより、何よりも「普通食からつわり食に変更です。」と連絡があった時は“やったー、おめでとう！！”と、なんとも嬉しい気持ちになります。

患者さんとしては、赤ちゃんを授かった喜びに浸る間もなく、行動の制限と辛いつわりに耐え、食は進まず、早く帰りたいと願っているかもしれません、私たちは、何とか母子共々の身になり栄養になるよう、少しでも食べていただこうと願いながら作させてもらっています。確かに残食は多くなりますが、いつも以上に力が入ります。

退院していかれる患者さんから、お礼や励ましのお手紙をたくさんいただくことがあります。これは、私達にとって財産であり、何よりの励みになっております。

小さな力ではありますが、私達の作るお食事が、ほんの少しでも患者さんに喜んでいただけたり、入院中のささやかな楽しみとなっていただけたら幸いです。

矢野 千恵美



診療統計

外来患者および妊娠結果の内訳

(2008.12.31 現在)

1. 当院の患者数

1) 開院(1992.6.3) ~ 本年(2008.12.31)までの外来患者数

17,721 人

(内訳) 男性 6,115 人 (34.5%) (平均年齢 33.6 才)
正常 2,985 人 (48.8%) 未検査 44 人 (0.7%)
異常 3,086 人 (50.5%)

女性 11,606 人 (65.5%) (平均年齢 31.1 才)

・ 桑児希望の女性 8,834 人 (76.1%) (平均年齢 31.2±4.5 才)
・ 妊娠件数 5,065 件 (平均年齢 31.7±4.2 才)
・ 妊娠に至らなかつた女性 4,431 人

2) 妊娠率(患者あたり) **49.8%** { (8,834 - 4,431) / 8,834 }

3) 治療を途中で諦めた女性 3,982 人 (45.1%)

A) 諦めざるをえなかつた人(無精子症,早発閉経,高齢など) 831 人 (9.4%)
B) いつの間にか諦めた人 3,151 人 (35.7%)

4) 実妊娠率(Aを除く患者あたり) **77.5%** { (8,834 - 4,431) / 8,834 -(3,982 - 831) }

5) 実妊娠率(A,Bを除く患者あたり) **90.7%** { (8,834 - 4,431) / (8,834 - 3,982) }

2. 妊娠の内訳

他院へ紹介済	3,746 例	(73.96%)
流産	1,054 例	(20.81%)
子宮外妊娠	143 例	(2.82%)
胞状奇胎	14 例	(0.28%)
中絶	1 例	(0.02%)
不明	107 例	(2.11%)
計	5,065 例	(100%)

3. 出産結果 (他院へ紹介済の 3,746 例中、妊娠結果が判明している 3,377 例について)

1) 妊娠結果

満期産	2,914 例	(86.29%)
満期産+死産*	2 例	(0.06%)
満期産+外妊*	1 例	(0.03%)
早産	347 例	(10.28%)
早産+死産*	8 例	(0.24%)
過期産	15 例	(0.44%)
死産	39 例	(1.15%)
流産	40 例	(1.18%)
流産+死産*	1 例	(0.03%)
奇形中絶	6 例	(0.18%)
人工妊娠中絶	4 例	(0.12%)
計	3,377 例	(100%)

* 双胎で 2 児の妊娠結果が異なる例

2) 多胎妊娠について

単胎	3,053 例	(90.4%)	3,053 児
双胎	308 例	(9.1%)	616 児
品胎	16 例	(0.5%)	48 児
計	3,377 例	(100%)	3,717 児

3) 出生児の状態

正常	2,846 児	(76.6%)
低体重児	654 児	(17.6%)
異常(死産等含む)	217 児	(5.8%)
(うち奇形を含む主な異常)	(123 児)	(3.3%)
計	3,717 児	(100%)

4. 妊娠に至った主たる有効治療

ART(生殖補助医療)全体	1,983 例	(39.2%)
IVF-ET(体外受精)	631 例	(12.46%)
MF-ET(顕微授精)	732 例	(14.45%)
CRYO-ET(凍結胚移植)	577 例	(11.39%)
GIFT(配偶子卵管内移植法)	38 例	(0.75%)
ZIFT(接合子卵管内移植法)	5 例	(0.10%)
ART(生殖補助医療)以外	3,082 例	(60.8%)
IUI(選別精子子宮内注入法)	744 例	(14.69%)
hMG+hCG, Gn-RHa	442 例	(8.73%)
クロミフェン	425 例	(8.39%)
ヒューナーテスト, タイミング指導	624 例	(12.32%)
HSG(子宮卵管造影法)直後	356 例	(7.03%)
腹腔鏡検査後自然妊娠	351 例	(6.93%)
リンパ球免疫療法	15 例	(0.29%)
その他	125 例	(2.47%)
計	5,065 例	(100%)

(2008/12/31 セント・ルカ産婦人科)

外来・入院数 (2008.1.1~2008.12.31)

	入 院	外 来
1月	75	1,467
2月	148	2,123
3月	158	2,197
4月	120	2,044
5月	163	2,029
6月	141	2,087
7月	79	1,487
8月	172	1,915
9月	135	2,148
10月	133	2,149
11月	80	1,590
12月	132	2,024
合計	1,536	23,260

入院数 (2008.1.1~2008.12.31)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
手術入院													
腹腔鏡手術	14	20	18	24	13	17	14	19	17	16	7	11	190
子宮内容除去術 (流産のため)	3	6	7	5	2	4	2	7	5	5	3	8	57
子宮筋腫核出術	0	1	2	2	4	4	1	3	2	3	3	4	29
卵胞穿刺術	3	2	0	2	3	2	3	1	0	1	0	0	17
経頸管子宮筋腫切除術 (TCR)	2	2	1	3	2	3	4	1	3	1	0	1	23
子宮内膜搔爬術	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2
腹腔鏡下 子宮外妊娠手術	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	4
開腹手術 (子宮全摘出術)	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
卵巣腫瘍核出術	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3
開腹手術 (双角子宮形成術)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
減胎手術	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合 計	23	31	31	36	25	31	24	31	28	29	14	24	327

安静入院													
卵巣過剰刺激症候群	1	2	1	0	2	0	0	3	1	1	1	0	12
切迫流産安静	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4
その他	0	1	1	0	1	0	2	0	0	1	0	0	6
合 計	1	3	4	0	4	0	3	3	1	2	1	0	22

体外受精入院													
採卵	18	50	45	36	66	41	22	69	41	46	24	43	501
胚移植	7	24	31	15	31	24	8	38	19	28	18	23	266
凍結胚移植	26	40	47	33	37	45	22	31	46	28	23	42	420
GIFT,ZIFT,TET	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	51	114	123	84	134	110	52	138	106	102	65	108	1,187

入院総計	75	148	158	120	163	141	79	172	135	133	80	132	1,536
------	----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	-----	-------

妊娠数 (1992.6.3~1997.12.31)

	周期	1992	1993	1994	1995	1996	1997
体外受精 胚移植	採卵	63	213	266	270	279	329
	移植	50	153	200	221	247	276
	妊娠	2 (4.0 %)	23 (15.0 %)	51 (25.5 %)	61 (27.6 %)	55 (22.3 %)	54 (19.6 %)
顯微授精 胚移植	採卵	0	33	167	246	239	224
	移植	0	20	130	210	222	192
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (5.0 %)	16 (12.3 %)	36 (17.1 %)	36 (16.2 %)	35 (18.2 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融解周期	0	5	7	20	52	90
	移植	0	5	7	19	52	88
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (14.3 %)	0 (0.0 %)	6 (11.5 %)	15 (17.0 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	2	43	30	17	8	15
	移植	1	42	30	17	8	15
	妊娠	0 (0.0 %)	10 (23.8 %)	10 (33.3 %)	5 (29.4 %)	4 (50.0 %)	4 (26.7 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	4	10	3
	移植	0	0	0	4	10	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (20.0 %)	0 (0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	7	2	9	2	2
	移植	0	6	2	9	2	2
	妊娠	0 (0.0 %)	1 (16.7 %)	0 (0.0 %)	1 (11.1 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	0	1	1	8	0	1
	移植	0	1	1	8	0	1
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	3 (37.5 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融解周期	0	0	0	0	0	1
	移植	0	0	0	0	0	1
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	65	297	466	554	538	574
	凍結融解周期	0	5	7	20	52	91
	移植	51	227	370	488	541	578
	妊娠	2 (3.9 %)	35 (15.4 %)	78 (21.1 %)	106 (21.7 %)	103 (19.0 %)	108 (18.7 %)

ART*以外の妊娠数	96	215	214	247	203	177
妊娠総数	98	250	292	353	306	285

*生殖補助医療

妊娠数 (1998.1.1～2003.12.31)

	周期	1998	1999	2000	2001	2002	2003
体外受精 胚移植	採卵	282	253	154	119	172	139
	移植	225	224	121	93	123	100
	妊娠	48 (21.3 %)	62 (27.7 %)	37 (30.6 %)	41 (44.1 %)	41 (33.3 %)	36 (36.0 %)
顯微授精 胚移植	採卵	265	342	317	377	344	420
	移植	227	276	238	283	215	279
	妊娠	31 (13.7 %)	34 (12.3 %)	50 (21.0 %)	63 (22.3 %)	45 (20.9 %)	65 (23.3 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	122	107	170	195	255	238
	移植	121	93	153	140	171	185
	妊娠	29 (24.0 %)	23 (24.7 %)	32 (20.9 %)	48 (34.3 %)	48 (28.1 %)	37 (20.0 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	19	6	9	1	1	1
	移植	19	6	9	1	1	1
	妊娠	2 (10.5 %)	1 (16.7 %)	2 (22.2 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
接合子 卵管内移植	採卵	11	4	10	1	0	0
	移植	11	4	10	1	0	0
	妊娠	2 (18.2 %)	1 (25.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	5	0	1	0	0	0
	移植	5	0	1	0	0	0
	妊娠	2 (40.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	2	0	0	0	0	0
	移植	2	0	0	0	0	0
	妊娠	1 (50.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	0	0	0	0	0	0
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	582	605	491	498	517	560
	凍結融 解周期	124	107	170	195	255	238
	移植	610	603	532	518	510	565
	妊娠	115 (18.9 %)	121 (20.1 %)	121 (22.7 %)	152 (29.3 %)	134 (26.3 %)	138 (24.4 %)

ART以外の妊娠数	177	153	169	169	168	157
妊娠総数	292	274	290	321	302	295

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

妊娠数 (2004.1.1~2008.12.31)

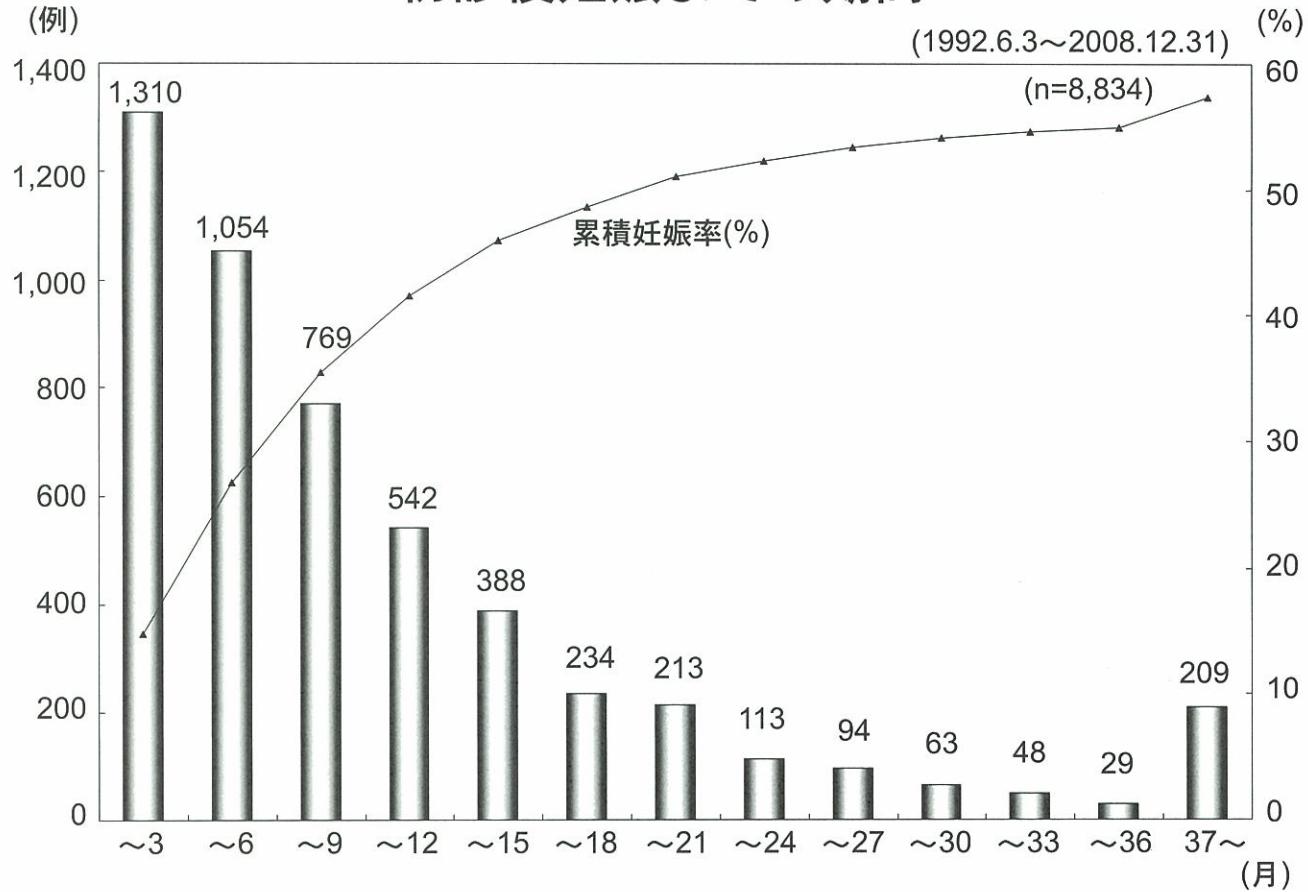
	周期	2004	2005	2006	2007	2008	合計
体外受精 胚移植	採卵	103	62	98	155	111	3,068
	移植	69	38	48	89	58	2,335
	妊娠	25 (36.2 %)	17 (44.7 %)	20 (41.7 %)	36 (40.4 %)	20 (34.5 %)	629 (26.9 %)
顯微授精 胚移植	採卵	436	451	414	424	386	5,085
	移植	328	297	267	237	208	3,629
	妊娠	72 (22.0 %)	74 (24.9 %)	74 (27.7 %)	58 (24.5 %)	37 (17.8 %)	727 (20.0 %)
凍結融解 胚移植 (ICSI後 凍結含む)	凍結融 解周期	218	249	251	375	423	2,777
	移植	187	234	240	353	396	2,444
	妊娠	47 (25.1 %)	54 (23.1 %)	57 (23.8 %)	76 (21.5 %)	80 (20.2 %)	553 (22.6 %)
体外成熟 培養後 凍結融解 胚移植	凍結融 解周期	6	18	9	24	28	85
	移植	5	13	6	21	24	69
	妊娠	0 (0.0 %)	6 (46.2 %)	2 (33.3 %)	7 (33.3 %)	8 (33.3 %)	23 (33.3 %)
配偶子 卵管内移植	採卵	1	0	0	0	0	153
	移植	1	0	0	0	0	151
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	38 (25.2 %)
接合子 卵管内移植	採卵	0	0	0	1	0	44
	移植	0	0	0	1	0	44
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (11.4 %)
体外受精胚 卵管内移植	採卵	0	0	0	0	0	22
	移植	0	0	0	0	0	21
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	2 (9.5 %)
顯微授精胚 卵管内移植	採卵	1	0	0	0	0	18
	移植	1	0	0	0	0	18
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	5 (27.8 %)
凍結融解胚 卵管内移植	凍結融 解周期	0	0	0	0	0	3
	移植	0	0	0	0	0	3
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	1 (33.3 %)
体外成熟培養 体外受精 胚移植	採卵	2	6	0	0	0	8
	移植	0	0	0	0	0	0
	妊娠	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)	0 (0.0 %)
小計	採卵	543	519	512	580	497	8,398
	凍結融 解周期	224	267	260	399	451	2,865
	移植	591	582	561	701	686	8,714
	妊娠	144 (24.4 %)	151 (25.9 %)	153 (27.3 %)	177 (25.2 %)	145 (21.1 %)	1,983 (22.8 %)

ART [*] 以外の妊娠数	167	204	181	189	196	3,082
妊娠総数	311	355	334	366	341	5,065

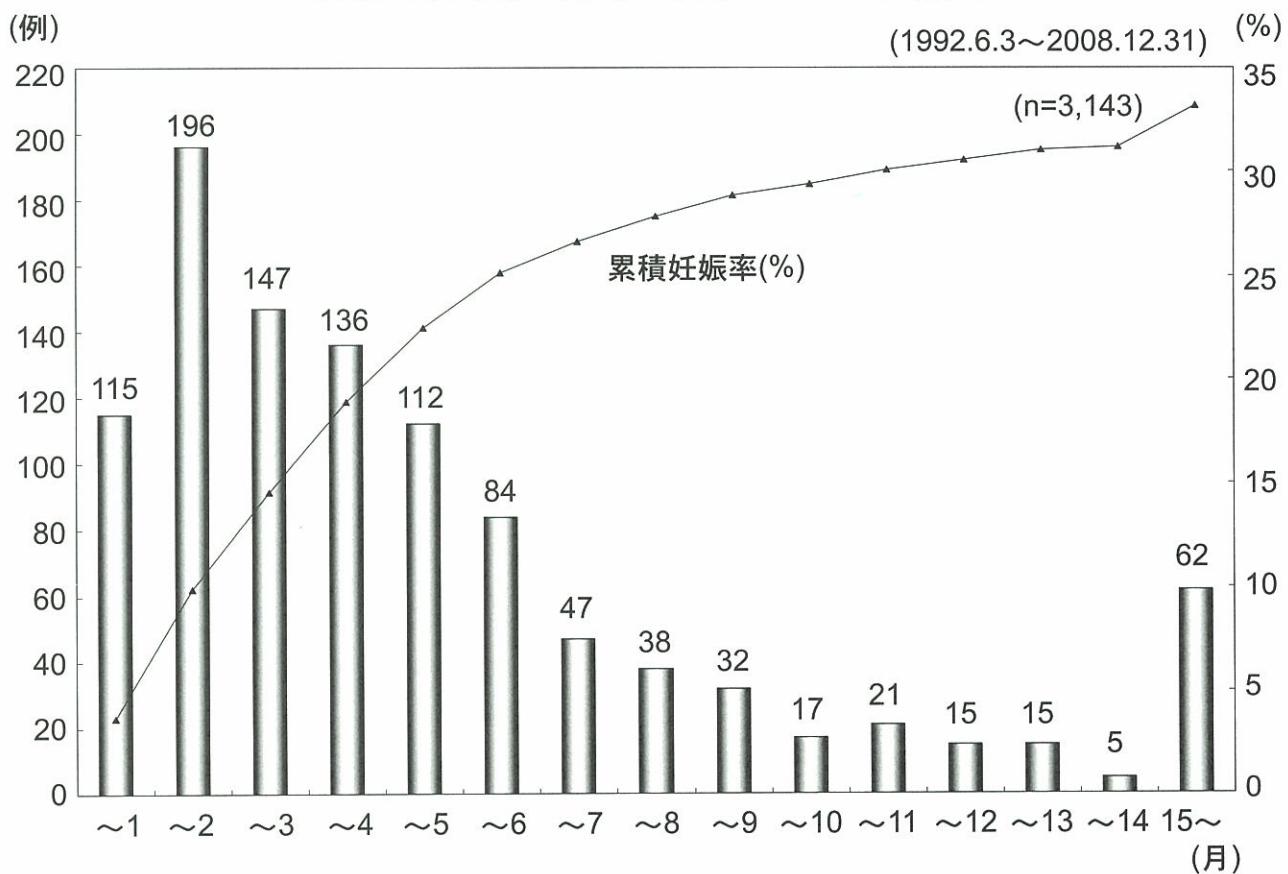
*生殖補助医療

・採卵日と胚移植日が異なるため、年ごとの移植数に多少の変動が出ます

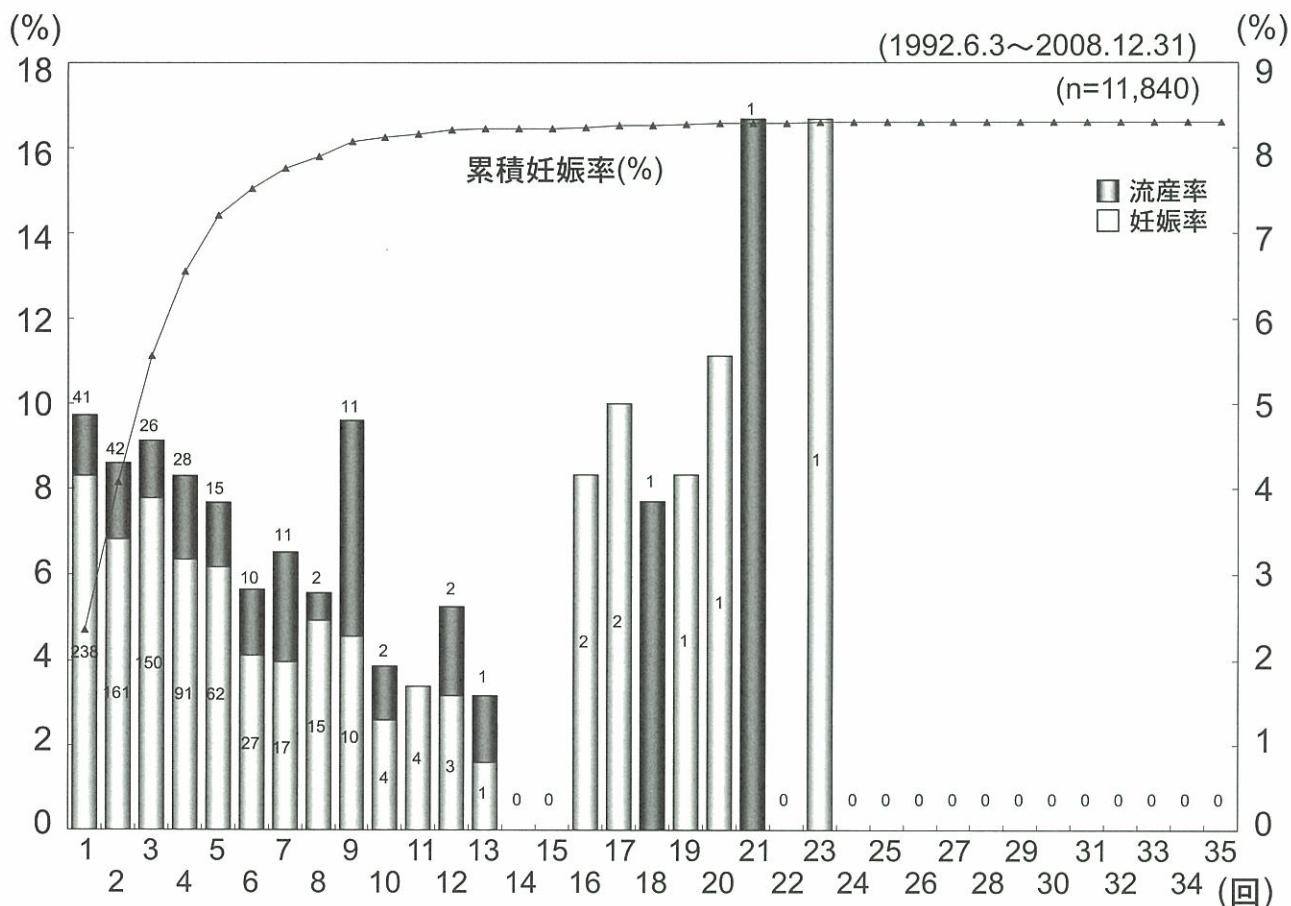
初診後妊娠までの期間



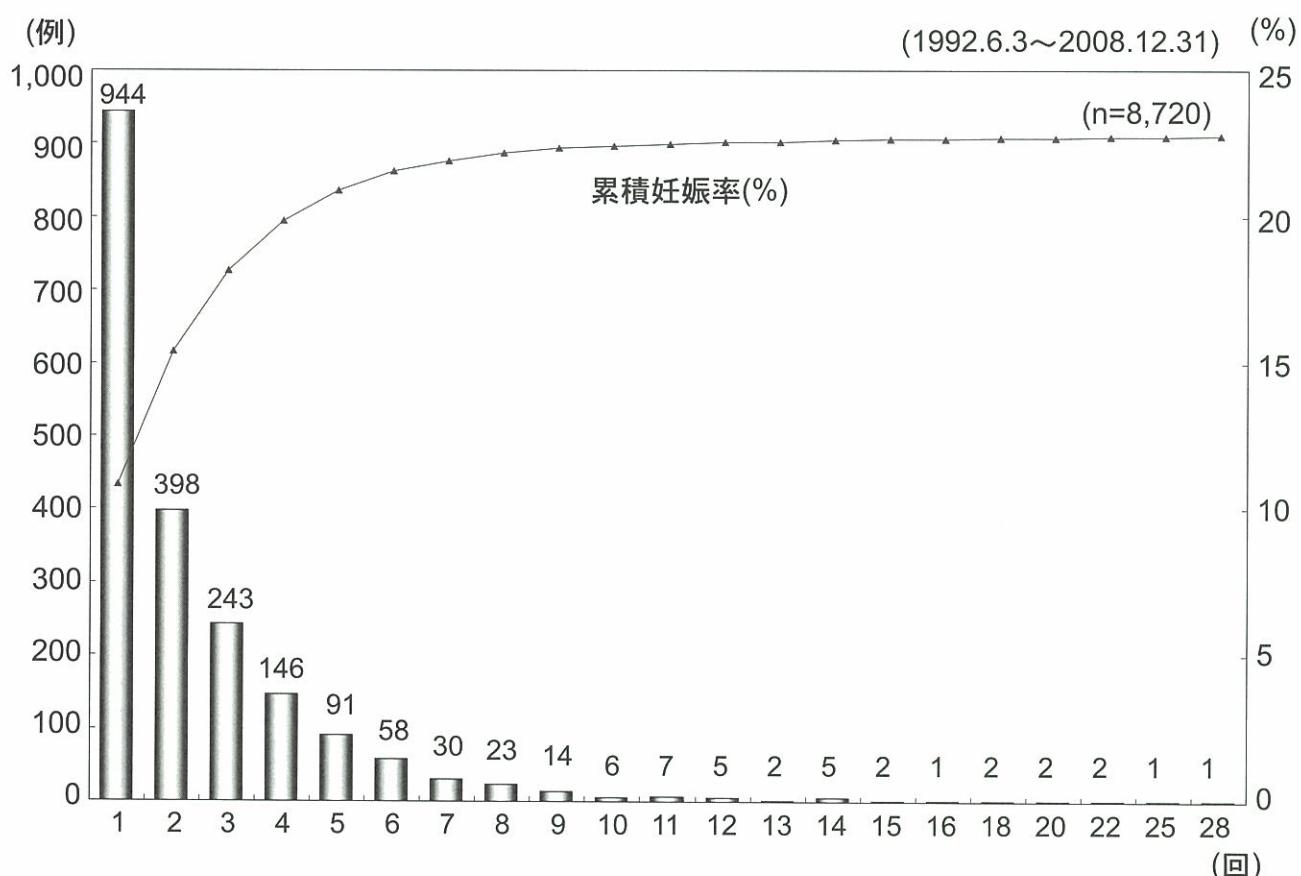
腹腔鏡検査後妊娠までの期間



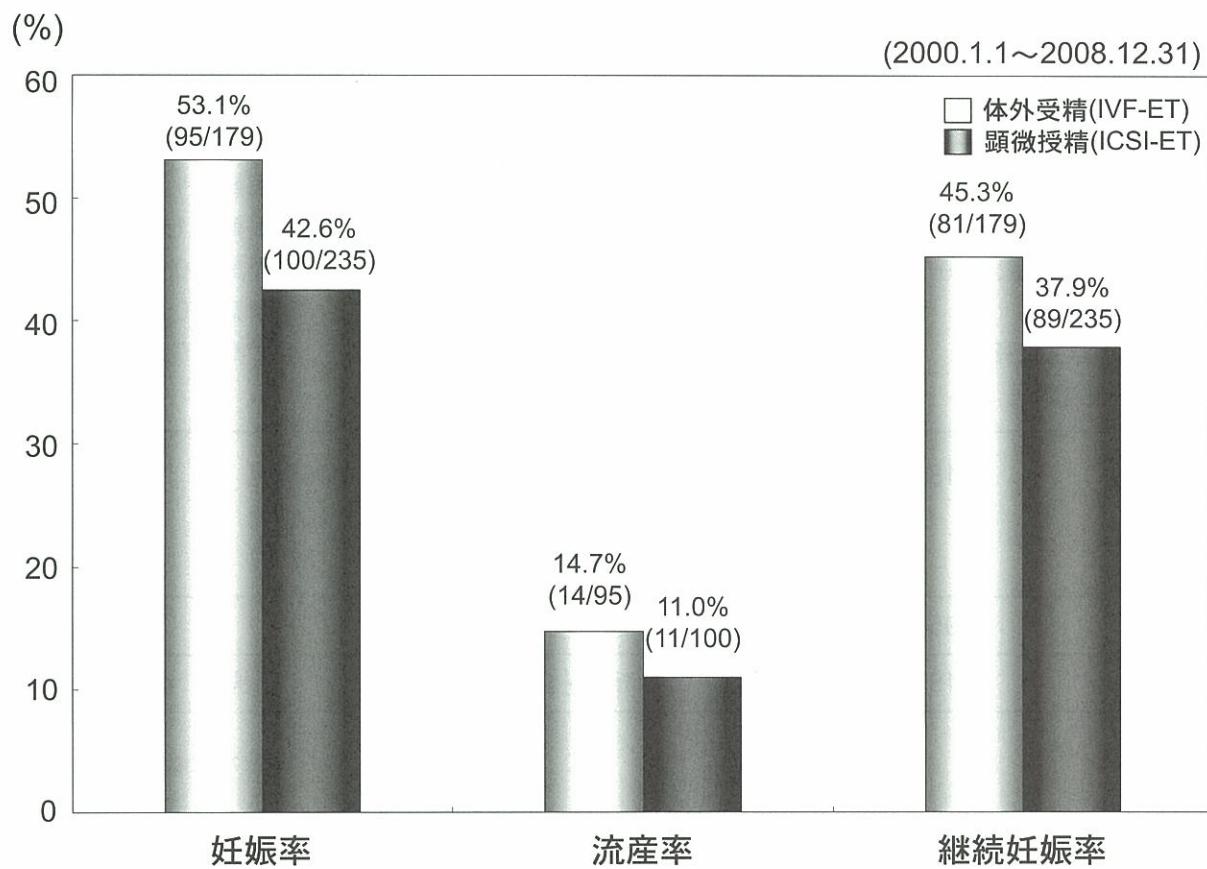
IUI(選別精子子宮内注入法)による回数別妊娠率



ART(生殖補助医療/体外受精・顕微授精・GIFT)による妊娠



35歳未満・体外受精1回目の妊娠率



ART(生殖補助医療)による妊娠 1992.6.3～2008.12.31

	採卵周期数	胚移植周期数 (採卵あたり%)	妊娠周期数 (移植あたり%)	流産周期数 (妊娠あたり%)
IVF-ET	3,090	2,356 (76.2 %)	631 (26.8 %)	156 (24.7 %)
MF-ET (男性因子 以外も含む) (ICSI)	5,111 4,692	3,647 (71.4 %) 3,549 (75.6 %)	732 (20.1 %) 721 (20.3 %)	215 (29.4 %) 210 (29.1 %)
GIFT	153	151 (98.7 %)	38 (25.2 %)	13 (34.2 %)
ZIFT	44	44 (100 %)	5 (11.4 %)	1 (20.0 %)
CRYO-ET	2,865	2,516 (87.8 %)	577 (22.9 %)	147 (25.5 %)
ART.total	11,263	8,714 (77.4 %)	1,983 (22.8 %)	532 (26.8 %)

ART(生殖補助医療)による出産および出生児の状況

(1992.6.3～2008.12.31)

出産周期	1,281周期	妊娠結果が判明している1,281周期に限る		
妊娠結果				
満期産	1,022周期 (79.78%)	死産	20 周期 (1.56%)	
満期産、死産*	2周期 (0.16%)	流産	17 周期 (1.33%)	
満期産、外妊*	1周期 (0.08%)	流産、死産*	1 周期 (0.08%)	
早産	205周期 (16.00%)	奇形中絶	3 周期 (0.23%)	
早産、死産*	6周期 (0.47%)	人工妊娠中絶	1 周期 (0.08%)	
過期産	3周期 (0.23%)			
多胎妊娠について	1,518児	単胎	1,055 例 (82.3%)	1,055 児
		双胎	215 例 (16.8%)	430 児
		品胎	11 例 (0.9%)	33 児
低体重児	395児 (26.0%)			
異常児	118児 (7.8%)	うち奇形を含む主な異常		71児 (4.7%)

* 双胎で2児の妊娠結果が異なる例

異常児の詳細 (1992.6.3～2008.12.31)

主な異常	123児	123児／3,717児 (3.3%)		うち ART*児：71児／1,518児 (4.7%)		ART以外児：52児／2,199児 (2.4%)	
		ART	ART以外			ART	ART以外
染色体異常	9児	5児		手足形成異常		5児	1児
脳・神経系異常	10児	9児		関節異常		2児	0児
心臓・血管系異常	8児	14児		胎児水腫		3児	3児
内臓疾患	6児	4児		腫瘍		1児	1児
甲状腺機能低下症	2児	2児		ヘルニア		2児	1児
縦隔気腫	1児	1児		停留精巣		1児	0児
胸郭低形成	1児	0児		小人症疑い		0児	1児
外耳道閉鎖	0児	1児		Cornelia de Lange症候群		1児	0児
先天性白内障	1児	0児		Russell-Silver症候群		0児	1児
先天性鼻涙管閉塞	1児	1児		Sturge-Weber症候群		0児	1児
小顎症	0児	1児		奇形中絶		3児	1児
口唇裂・口唇蓋裂	9児	3児		出産後死亡		5児	1児

*生殖補助医療

セント・ルカ産婦人科
1年のあるゆみ

セント・ルカ産婦人科 1年のあゆみ

(2008.1.1~2008.12.31)

学会発表	45題
院長	6
看護部	13
培養室・検査室	25
事務部	1
学会講演会参加	34回
研修会	22回
論文	3編
著書（共著）	5編 3名
主催講演	5回
セント・ルカセミナー	1 総参加人数 72名
『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座	4 総参加人数 343名
講演・講師	6回
院長	4
看護部	2
不妊カウンセラー活動	37回
新患教室	8 総参加人数 506名
体外受精教室	12 総参加人数 574名
ガーネットサークル	4 総参加人数 27名
オリーブの会	13 総参加人数 57名
院内講習会	4回
京都大学名誉教授、NPO 法人生殖再生医学アカデミア理事長 森崇英先生ご来院・ご指導	1回
高度生殖医療技術研究所所長 荒木康久先生ご来院・ご指導	2回
東北大学未来医工学治療開発センター准教授 有馬隆博先生ご来院・ご指導	1回
不妊治療の保険適用に向けての活動	6回

行事一覧(1)

- 2008 1.10 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
1.12 第 29 回 新患教室 参加者 67 名 参加<佐藤晶、岡田、深田、後藤裕、河野、足立直、指山>
1.15 第 106 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
1.19 第 129 回 体外受精教室 参加者 26 名 参加<井澤、桑野、三重野、齊高>
1.26 第 2 回 第 5 期オリーブの会 参加者 7 名
1.26 第 5 回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(東京) 参加<院長>
1.29 釘宮磐大分市長を囲んでの竜馬会(大分市) 参加<院長>
1.31 日本学術会議主催公開講演会「生殖補助医療のいま—社会的合意を求めて」(東京)
参加<院長>
2.1 職員健康診断開始
2.2 JA 北海道厚生連札幌厚生病院(北海道) 三國雅人先生 施設見学のためご来院
2.3 第 5 回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(東京) 参加<門屋>
教育セミナー「不妊治療における統合医療の意義」座長：院長
教育セミナー講演：「生殖心理カウンセリングの現状と問題点」(上野桂子)
発表：「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
2.9 第 30 回 新患教室 参加者 70 名 参加<岡田、深田、後藤裕、河野、指山>
2.9 第 6 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 7 名
2.12 第 107 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
2.16 第 34 回 ガーネットサークル OG1 名、参加者 8 名
2.16 第 5 回 2007 年度(第 1 期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<城戸、後藤裕、門屋>
2.16 第 11 回 胎児遺伝子診断研究会(長崎) 参加<佐藤晶、院長>
発表：「当院の着床前診断への取り組み」(大津英子)
2.17 大分市医師会立 アルメイダ病院内覧会 参加<山路、工藤由、足立小、越名、酒井、関、
越光、篠田、指山、院長>
2.19 院内全体研修：防災訓練(担当：看護部)
2.23 第 130 回 体外受精教室 参加者 55 名 参加<佐藤久、井澤、桑野、齊高>
2.23 第 3 回 第 5 期オリーブの会 参加者 9 名
2.24 日本受精着床学会 第 4 回 ART 生涯研修コース(東京) 参加<佐藤晶、城戸、河邊、院長>
2.26 第 95 回 大分県周産期研究会 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、
佐藤千、後藤香、熊迫、長木、大津、岡田、深田、井澤、桑野、後藤裕、三重野、足立直、
松元、赤嶺、齊高、原井、指山、上野、西井(札幌厚生病院より研修中)>
発表：「生殖補助医療の最近の現状について」(院長)
「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
2.29 「悪性腫瘍未婚女性患者における卵子採取、ならびに凍結保存の臨床研究」
についての講演会(大阪)
発表：「A-PART 日本支部における悪性腫瘍未婚女性患者からの
卵子採取凍結保存に対する取組と現状」(院長)
3.1 第 22 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
3.2 JISART 施設認定審査 審査員<門屋> オブザーバー参加<院長(JISART-RTAC 審査委員長)>
3.9 JISART 施設認定審査 審査員<上野、院長>
3.9 JISART 施設認定審査 審査員<大津>
3.10 高度生殖医療技術研究所(群馬)所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
3.15 第 131 回 体外受精教室 参加者 43 名 参加<桑野、三重野、齊高>
3.16 第 3 回 レーザーリプロダクション学会(東京) 参加<院長>
3.16 JISART 施設認定審査 審査員<上野>
3.18 第 108 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
3.18 診療報酬点数表改正に向けての説明会 参加<足立小、越名>

行事一覧(2)

- 2008 3.22 第33回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者84名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<佐土原、越名、熊迫、岡田、河野、足立直>
- 3.26 矢野産婦人科(愛媛) SarahBase デモンストレーション <工藤由>
- 3.29 第4回 第5期オリーブの会 参加者6名
- 3.30 第3回 日本生殖再生医学会・学術集会(東京)
シンポジウム「着床に関する理論と実践」座長：院長
ポスター発表：「不妊治療後の流産絨毛におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子)
「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(後藤香里)
「割球大小不同を考慮にいれた着床前診断」(大津英子)
- 4.1 日本生殖医療心理カウンセリング学会 不妊相談士(不妊コンサルタント)認定
<ラボ：城戸京子 看護部：後藤裕子、門屋英子>
- 4.3 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 4.8 第109回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 4.11 県立広島病院(広島) 統計解析指導 <山路、工藤由>
- 4.12 第31回 新患教室 参加者69名 参加<深田、後藤裕、足立直、指山>
- 4.12 第7回 第3期・第4期合同オリーブの会 参加者3名
- 4.13 第60回 日本産科婦人科学会(神奈川) 参加<院長>
- 4.15 院内全体研修：心肺蘇生法(AED・担架設置に伴う)勉強会 (担当：看護部)
- 4.18 第27回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加<山路、平松、工藤由、
佐土原、西郡、足立小、佐藤千、大津、岡田、深田、井澤、後藤裕、松元、齊高、赤嶺、篠田、
門屋、指山、上野、河邊、院長>
「病態から見た黄体機能不全」
(山口大学大学院医学系研究科 産科婦人科学教授 杉野法広先生)
- 4.19 第132回 体外受精教室 参加者47名 参加<井澤、岡田、齊高>
- 4.19 京野アートクリニック開院記念 IVF/IMSI セミナー&ワークショップ(宮城) 参加<小池、城戸>
- 4.20 JISART 施設認定審査
- 4.20 第7回 生殖補助医療胚培養士資格認定制度資格審査 受験<佐藤久>
- 4.22 院内全体研修：接遇に関する勉強会(担当：教育・推進委員会)
- 4.26 第4回 福岡産婦人科内視鏡手術懇話会(福岡) 参加<三重野、越光>
発表：「不妊症患者における腹腔鏡検査前後の心理」(河野絢子)
「子宮筋腫・腺筋症核出後の2nd-look laparoscopyの有用性について」(院長)
- 4.26 第5回 第5期オリーブの会 参加者3名
- 4.27 第65回 日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<河野、院長>
一般演題「心理と看護」座長：上野桂子
発表：「不妊治療後の流産絨毛におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子)
「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(熊迫陽子)
「当院における体外受精教室の現状—教室前後の質問紙調査から—」(三重野直美)
「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
- 5.2 矢野産婦人科(愛媛)開院式 参加<院長>
- 5.10 第32回 新患教室 参加者65名 参加<深田、後藤裕、河野、足立直、指山>
- 5.13 第110回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 5.13 院内全体研修：手の消毒、手洗いの方法(担当：看護部)
- 5.17 第49回 日本哺乳動物卵子学会(愛知)
ランチョンセミナ一座長：院長
発表：「ART後の流産におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子)
「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の臨床的有用性」(熊迫陽子)
- 5.17 第49回 日本哺乳動物卵子学会(愛知) SarahBase ブース展示 <山路、工藤由>

行事一覧(3)

- 2008 5.17 第6回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(名古屋) 参加<院長>
5.20 ISO9001 マネジメントレビュー
5.22 金沢医科大学生殖周産期医学(石川) 富澤英樹先生研究のためご来院
5.24 第133回 体外受精教室 参加者78名 参加<岡田、井澤、三重野、齊高>
5.24 第35回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名
5.24 JISART 倫理委員会(東京) 参加<上野>
5.27 院内全体研修：人間関係の基礎I(担当：心理専門相談室)
5.31 第6回 第5期オリーブの会 参加者3名
6.1 第15回 セント・ルカセミナー
講師 東口篤司先生<KKR 札幌医療センター斗南病院生殖内分泌科 科長>
「着床率の改善のために～
1) もうD&C(搔爬手術)はやめよう、
2) もっとホルモン補充周期を用いた凍結胚移植を、
3) 子宮中隔、Asherman症候群の手術における術中子宮腔造影とIUDの工夫」
講師 森崇英先生<京都大学名誉教授、NPO法人生殖再生医学アカデミア 理事長>
「卵胞閉鎖のホルモン調節」
講師 有馬隆博先生<東北大学未来医工学治療開発センター 准教授>
「ARTをめぐる遺伝学的問題点への解明～特に男性不妊とエピジェネティクス」
講師 荒木康久先生<高度生殖医療技術研究所 所長>
「見直してみたい体外受精のラボ業務
～あなたの技術に一步工夫してみたらどうでしょう？」
講師 上野桂子先生<セント・ルカ産婦人科 臨床心理士 生殖心理カウンセラー>
「対人援助職のコミュニケーションスキル」
講師 久保田健夫先生<山梨大学大学院医学工学総合研究部環境遺伝医学講座 教授>
「エピジェネティクスと疾患～周産期環境によるエピジェネティクス変化の可能性～」
講師 石井慶子先生<NPO法人Fine～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～
Fineピア・カウンセラー>
「不妊と向き合うために必要な力～Fineピア・カウンセラーの活動から」
6.1 第1回 2008年度(第2期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<小池>
6.2 大分県立病院 山根敬子先生研修のためご来院(～6月末まで)
6.2 高度生殖医療技術研究所 所長 荒木康久先生ご来院・ご指導
6.2 新カルテ庫工事着工
6.7 第1回 JISART事務教育セミナー(東京) 参加<工藤由>
発表：「セント・ルカ産婦人科 受付部門 安全管理委員会報告について」(越名久美)
6.7 第1回 JISARTラボ教育セミナー(東京) 参加<熊迫>
発表：「患者取り違え防止に対する対処－ET－」(大津英子)
6.7 第5回 JISART看護教育セミナー(東京) 参加<篠田>
グループディスカッションファシリテーター：門屋英子
6.7 第23回 JISART理事会(東京) 参加<院長>
6.8 第6回 JISARTシンポジウム(東京) 参加<工藤由、越名、熊迫、大津、篠田、門屋、指山、上野>
会長講演：「JISARTのいち会員として」(院長)
シンポジウム「妊娠困難例(高齢患者に対して)に対してこうしている」座長：院長
6.8 第6回 JISART総会(東京) 参加<院長>
6.10 第111回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
6.11 大分県立看護科学大学講義 参加<山路、平松、佐土原、熊迫、深田、井澤、足立直、工藤美、越光、赤嶺、後藤裕、原井、指山>
講義：「不妊症講座」(院長)

行事一覧(4)

- 2008 6.14 第 134 回 体外受精教室 参加者 42 名 参加<岡田、井澤、斎高>
6.14 第 8 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 5 名
6.20 新カルテ庫完成
6.21 第 34 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 100 名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、平松、西郡、足立小、佐藤久、河野、足立直、後藤裕、篠田、門屋>
6.24 第 96 回 大分県周産期研究会 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、
佐藤久、小池、佐藤千、城戸、熊迫、長木、大津、岡田、深田、井澤、足立直、斎高、門屋、
原井、指山、上野、院長>
発表：「不妊治療後の流産におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」(佐藤晶子)
「CMI 健康調査による不妊症患者の健康状態について」(酒井操)
6.24 職場におけるリーダーシップを科学する研修 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
6.28 第 48 回 日本先天異常学会学術集会(東京) 参加<城戸、大津、院長>
6.30 大分県立病院 山根敬子先生送別会
7.1 院内全体研修(安全管理研修)：リスクマネージメントの必要性(担当：看護部)
7.6 24th ANNUAL MEETING ESHRE2008(SPAIN) 参加<熊迫、酒井、院長>
7.7 看護部研究「患者さんへの体重管理指導」の取り組みのための研修
大分大学医学部総合内科学第一講座教授 吉松博信先生 教授室訪問 参加<工藤美、足立直>
7.15 第 112 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
7.15 看護部研究「患者さんへの体重管理指導」の取り組みのための研修 内科阿部医院(大分)訪問
参加<工藤美、足立直>
7.19 第 33 回 新患教室 参加者 69 名 参加<深田、三重野、河野、指山>
7.19 第 7 回 第 5 期オリーブの会 参加者 3 名
7.19 大分県看護協会主催『看護と感染管理』(大分) 参加<酒井、後藤裕>
7.20 第 5 回 A-PART 日本支部学術講演会(東京) 参加<小池、城戸>
教育講演「生殖細胞形成過程におけるエピジェネティクス」座長：院長
発表：「卵子凍結保存臨床研究の現況報告」(院長)
7.21 第 2 回 Minimal Stimulation 研究会(東京) 参加<小池、城戸、院長>
7.22 ISO9001 外部審査 NQA-Japan 川合健一郎氏、渡邊喜二氏ご来院
7.22 大分大学医学部附属病院 松田佳歩先生研修のためご来院(~7月末まで)
7.25 第 7 回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、
緒方俊一先生(おがた泌尿器科医院 院長)、近藤邦子先生(別府平和園 保育士)、
指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師)
(五十音順)
7.26 第 135 回 体外受精教室 参加者 71 名 参加<岡田、井澤、三重野、斎高>
7.26 第 2 回 2008 年度(第 2 期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<小池>
7.29 大分県看護協会主催『看護とマネジメント～プリセプター研修～』(大分) 参加<酒井>
8.2 第 48 回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(横浜)
発表：「子宮筋腫・腺筋症核出後の 2nd-look laparoscopy の有用性について」(院長)
8.2 生殖心理カウンセラーワークshop(東京) 参加<上野>
8.3 第 7 回 生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京) 参加<佐藤久、長木、院長>
8.3 講演会「生殖技術で生まれた子どもたちからのメッセージ」(神奈川) 参加<院長>
8.4 釣宮磐大分市長を囲んでの竜馬会(大分市) 参加<院長>
8.8 第 26 回 日本受精着床学会総会・学術講演会 フリートークセッション 5
「日産婦指導の個別調査に対する各施設の現況と問題点」のための事前会議(東京)
参加<工藤由>
8.9 第 34 回 新患教室 参加者 49 名 参加<深田、河野、足立直、後藤裕、指山>

行事一覧(5)

- 2008 8.9 第9回 第3期・第4期合同オリーブの会 参加者3名
8.12 第113回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
8.18 片岡レディスクリニック(熊本) 杉本祥子さん研修のためご来院(~8月22日まで)
8.19 院内全体研修：心肺蘇生法(担当：看護部)
8.23 第136回 体外受精教室 参加者44名 参加<岡田、井澤、斎高>
8.28 第26回 日本受精着床学会総会・学術講演会(福岡) 参加<後藤裕、関、篠田、指山>
フリートークセッション
「習慣流産のPGD」進行役：大津英子
「ARTにおけるカウンセリング」進行役：上野桂子
「日産婦指導の個別調査に対する各施設の現況と問題点」進行役：院長
一般演題「カウンセリング・看護4」座長：上野桂子
ランチョンセミナー発表：「ARTとanti-Mullerian hormone(AMH)値について」(院長)
ビデオディスカッション発表：「造血疾患未婚女性患者からの卵子採取、
凍結保存による妊娠性温存」(院長)
シンポジウム発表：「当院での着床前診断」(大津英子)
ワークショップ発表：「培養室での事故防止のための取り組み」(大津英子)
発表：「不妊治療後の流産時に得られた胎盤絨毛におけるゲノムインプリント遺伝子の解析」
(佐藤晶子)(世界体外受精会議記念賞候補演題)
「ヒト未成熟卵子の採卵時における血清中LH/FSH比が、
IVM後の卵子成熟率、初期胚発生率、妊娠成績に及ぼす影響」(佐藤千賀子)
「ヒト胚を用いた走査型電気化学顕微鏡(SECM)による呼吸量測定の
臨床的有用性」(後藤香里)
「不妊原因別の卵管上皮細胞の培養結果と予後について」(熊迫陽子)
「当院における体外受精教室の現状～教室前後の質問紙調査から～」(三重野直美)
「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
- 8.28 第26回 日本受精着床学会総会・学術講演会(福岡) SarahBase ブース展示 <山路、工藤由>
8.28 第24回 JISART理事会(東京) 参加<院長>
8.30 第36回 ガーネットサークル OG1名、参加者9名
8.30 第15回 臨床遺伝学セミナープログラム(東京) 参加<城戸、大津>
9.2 院内全体研修：防災訓練(担当：培養室・検査室)
9.4 日本心理臨床学会学術集会第27回大会(東京)
自主シンポジウム『生殖医療が家族形成に及ぼす影響』：
「不妊治療における加齢患者への心理的支援」(上野桂子)
9.6 第8回 セント・ルカ産婦人科倫理委員会
倫理委員：上野徳美先生(大分大学医学部医学科社会心理学 教授)、
近藤邦子先生(別府平和園保育士)、指山実千代(セント・ルカ産婦人科 看護師長)、
野村陽一先生(日本福音ルーテル大分教会 牧師) (五十音順)
9.8 大分大学医学部附属病院 楠本真実子先生研修のためご来院(~9月20日まで)
9.9 第114回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
9.13 第137回 体外受精教室 参加者30名 参加<井澤、三重野、斎高>
9.15 着床前診断に反対するシンポジウム(東京) 参加<大津、門屋、上野、院長>
9.20 第35回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者85名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、佐土原、越名、大津、深田、河野、後藤裕>
9.20 第3回 2008年度(第2期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<小池>
9.27 第8回 第5期オリーブの会 参加者4名
9.27 第45回 九州首市医師会連絡協議会 参加<院長>

行事一覧(6)

- 2008 10.4 第 138 回 体外受精教室 参加者 34 名 参加<岡田、井澤、三重野>
10.4 第 1 回 大分 滅菌および感染対策研究会 参加<斉高、関>
10.11 第 11 回 日本 IVF 学会(大阪) 参加<熊迫>
発表 :「当院での媒精方法の選択と異常受精卵の染色体解析」(大津英子)
10.11 JISART 倫理委員会(東京) 参加<上野>
10.14 第 115 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
10.14 院内全体研修 : 院内感染研修(担当 : 看護部)
10.15 大分大学医学部生体分子構造機能制御講座教授 楢原久司先生ご来院
10.16 大分市自衛消防競技大会 参加<西郡、長木、赤嶺>
10.17 第 28 回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加<山路、平松、工藤由、
佐土原、西郡、足立小、越名、佐藤久、小池、佐藤晶、熊迫、岡田、井澤、二宮、松元、
工藤美、越光、赤嶺、関、篠田、原井、指山、上野、院長>
発表 :「子宮内膜症治療のトレンド」(高知大学医学部 産科婦人科学教授 深谷孝夫先生)
10.18 第 35 回 新患教室 参加者 57 名 参加<深田、河野、足立直、指山>
10.18 第 10 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 2 名
10.19 第 15 回 遺伝性疾患に関する出生前診断研究会(大分) 参加<佐藤晶、城戸、深田、関、篠田、
指山、上野、院長>
発表 :「PGS に対する院内倫理委員会の実施とその結果報告」(大津英子)
10.23 第 53 回 日本生殖医学会総会・学術講演会(神戸) 参加<後藤裕、指山、上野>
一般演題「受精・胚・着床 II」座長 : 院長
ワークショップ発表 :「走査型電気化学顕微鏡を用いたヒト胚の呼吸量測定の
臨床的有用性」(熊迫陽子)
発表 :「流産後の胎盤絨毛におけるゲノムインプリンティングの異常と
男性不妊因子との関連性について」(佐藤晶子)
「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
ポスター発表 :「ヒト初期胚の核形態の多様性」(大津英子)
「不妊原因別の卵管上皮細胞の培養結果と予後について」(長木美幸)
「当院における体外受精教室の現状～教室前後の質問紙調査から～」(三重野直美)
10.23 第 53 回 日本生殖医学会総会・学術講演会(神戸) SarahBase ブース展示 <山路、平松>
10.24 日本生殖医療心理カウンセリング学会役員会(神戸) 参加<上野、院長>
10.24 日本産科婦人科学会生殖医学の登録に関するご意見聴取の場(神戸) 参加<工藤由>
10.26 第 5 回 大分県母性衛生学会学術集会 参加<足立小、越名、佐藤久、熊迫、岡田、深田、
井澤、酒井、三重野、松元、工藤美、後藤裕、門屋、原井、指山、上野、院長>
発表 :「不妊治療中に流産となった患者への面接調査」(越光直子)
10.28 院内全体研修 : 人間関係の基礎 II(担当 : 心理専門相談室)
11.1 第 139 回 体外受精教室 参加者 40 名 参加<岡田、井澤、斉高>
11.4 第 116 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
11.8 64th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (San Francisco)
参加<院長>
ポスター発表 :「DNA methylation errors at imprinted loci after assisted conception originate
in the parental sperm」(佐藤晶子)
「Clinical efficacy for IVF patients using a new evaluation with a measurement
of oxygen consumption by scanning electrochemical microscopy」(城戸京子)
(アメリカ生殖医学会 学会優秀賞受賞)
11.15 第 9 回 第 5 期オリーブの会 参加者 2 名
11.16 第 1 回 Infertility Study Group セミナー(舞浜) 参加<佐藤久、長木>
ワークショップ発表 : エイジングと不妊治療のストラテジー 「①Overview」(院長)

行事一覧(7)

- 2008 11.20 第39回 大分市医師会医学会 参加<山路、平松、工藤由、足立小、越名、佐藤久、佐藤晶、熊迫、大津、深田、井澤、足立直、松元、越光、斎高、後藤裕、関、篠田、指山、上野、院長>
発表：「未婚がん患者の卵子凍結における現状」(小池恵)
「当院における体外受精教室の現状～教室前後の質問紙調査から～」(三重野直美)
- 11.22 第36回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者74名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、平松、足立小、佐藤晶、足立直、河野、後藤裕>
- 11.25 ISO9001マネジメントレビュー 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
- 11.28 アメリカ生殖医学会(ASRM)学術賞受賞祝賀会(大分)
- 11.29 第37回 ガーネットサークル OG1名、参加者5名
- 12.1 大分大学医学部附属病院 和田優子先生研修のためご来院(～12月13日まで)
- 12.4 大分県立看護科学大学講義 参加<山路、平松、工藤由、佐藤久、岡田、深田、井澤、二宮、赤嶺、関、指山>
講義：「不妊症講座」(院長)
「不妊治療と看護－患者の心理とケア・サポートー」(上野桂子)
- 12.5 大分県看護協会主催講義「看護者としての倫理」(大分) 参加<後藤裕、篠田>
- 12.6 第25回 JISART理事会(兵庫) 参加<院長>
- 12.6 第4回 2008年度(第2期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<小池>
- 12.9 第117回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 12.13 第140回 体外受精教室 参加者64名 参加<岡田、井澤、斎高>
- 12.13 忘年会
- 12.17 出張！よかたいオラクル倶楽部セミナー in 大分 参加<山路、平松、工藤由>
- 12.20 第36回 新患教室 参加者60名 参加<深田、河野、後藤裕、指山>
- 12.20 JISART 非配偶者間体外受精に関するカウンセリング研修(大阪) 参加<上野>
- 12.21 第3回 生殖再生医学会倫理委員会(京都) 参加<院長>
- 12.21 A-PART日本支部主催 2008年度第2回ワークショップ(東京)
「Vitrification ワークショップ-New Cryotopについてー」 参加<熊迫>
- 12.25 クリスマス会
- 2009 1.10 新年会(セント・ルカ多目的ホール)
- 1.13 第118回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 1.17 第37回 新患教室 参加者51名 参加<深田、河野、足立直、指山>
- 1.18 第6回 日本生殖医療心理カウンセリング学会学術集会(大阪) 参加<城戸、後藤裕>
パネル・ディスカッション「こんな時どうする？@生殖医療の現場から」座長：院長
一般講演座長：上野桂子
- ポスター発表：「ART施設におけるサポートグループの看護師の役割」(松元恵利子)
「治療継続のサポートのあり方～初診時から半年以内～」(関こずえ)
- (優秀演題賞受賞)
- 1.19 兵庫耐震工学研究センター施設見学(兵庫) 参加<城戸、後藤裕>
- 1.20 院内全体研修：料金表について(担当：受付)
- 1.24 第141回 体外受精教室 参加者57名 参加<井澤、三重野、斎高>
- 1.24 第5回 2008年度(第2期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<小池>
- 1.25 第6回 生殖看護学会九州地区勉強会(福岡) 参加<深田、足立直、工藤美>
- 1.27 院内全体研修：防災訓練(担当：受付)
- 1.29 ISO9001リーダー研修会 日本エム・エム・シー 田中繁充氏ご来院
- 1.29 第1回大分県産婦人科臨床フォーラム(大分) 参加<院長>
- 1.31 第5回 ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会 参加者9名
- 2.6 徳島大学病院(徳島)桑原章先生 特定不妊治療費助成事業の実情視察のためご来院

行事一覧(8)

- 2009 2.7 第 37 回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館) 参加者 45 名
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長、おがた泌尿器科医院 緒方俊一先生>
参加<山路、工藤由、佐土原、西郡、深田、河野、足立直、後藤裕>
- 2.10 第 119 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 2.17 院内全体研修：胚移植の説明について (担当：培養室・検査室)
- 2.20 職員旅行(北海道組 第 1 班) 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、熊迫、長木、井澤、松元、足立直、工藤美、越光、後藤裕、関、篠田、指山、河邊先生、事務長、院長>
- 職員旅行(関西組) 参加<別所、矢野、佐藤久、佐藤晶、河野、二宮、斎高、赤嶺>
- 2.21 第 6 回 2008 年度(第 2 期)不妊相談士養成講座(東京) 参加<小池> 面接官<上野>
- 2.22 第 5 回 ART 生涯研修コース(東京) 参加<城戸>
講師：「anti-mullerian hormone(AMH)値と ART」(院長)
- 2.23 職員旅行(北海道組 第 2 班) 参加<岡田、深田、原井>
- 2.24 第 98 回大分県周産期研究会 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、佐藤久、小池、城戸、井澤、二宮、松元、足立直、工藤美、河野、越光、斎高、赤嶺、篠田、指山、上野、院長>
発表：「ART 後の流産における原因のゲノムインプリントとの関係」(佐藤晶子)
「治療継続のサポートのあり方～初診時から半年以内～」(関こずえ)
- 2.26 醍醐渡辺クリニック(京都)胚培養士 野々口耕介先生 PGD 研修のためご来院
- 2.28 第 142 回 体外受精教室 参加者 55 名 参加<井澤、三重野、斎高>
- 2.28 第 38 回 ガーネットサークル OG1 名、参加者 8 名
- 3.7 第 26 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>
- 3.7 金沢医科大学生殖周産期医学(石川) 富澤英樹先生研究のためご来院
- 3.8 JISART 審査研修(東京) 参加<上野、院長>
- 3.10 第 120 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
- 3.14 第 38 回 新患教室 参加者 65 名 参加<足立直、河野、指山>
- 3.14 第 11 回 第 3 期・第 4 期合同オリーブの会 参加者 6 名
- 3.15 第 4 回 日本生殖再生医学会・学術集会(東京) 参加<院長>
ポスター発表：「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)
への臨床的有用性」(熊迫陽子)
「IVF における血清 AMH 値の検討」(長木美幸)
- 3.19 第 7 回 日本予防医学リスクマネージメント学術総会(京都)
一般演題 1 座長：院長
発表：「当院における体外受精患者さんへの多胎防止に対する取り組み」(熊迫陽子)
「不妊治療施設における看護部のインシデントレポート」(後藤裕子/指山実千代)
- 3.21 第 10 回 第 5 期オリーブの会 参加者 2 名
- 3.23 第 20 回 日本発達心理学会大会(東京)
自主シンポジウム話題提供者：「生殖医療と家族の発達:非典型的な家族を生きる」(上野桂子)
- 3.28 第 143 回 体外受精教室 参加者 51 名 参加<井澤、三重野、斎高>
- 3.28 セント・ルカ産婦人科&メディテック・ルカ合同お花見(大分・平和市民公園)
- 3.31 院内全体研修：HBe 型肝炎について (担当：看護部)
- 3.31 院内全体研修(安全管理研修)：ウィルス・個人情報漏洩の危険について (担当：情報処理室)
- 4.1 新職員 川村智恵さん(看護部)
- 4.4 第 39 回 新患教室 参加者 45 名 参加<川村、深田、河野、後藤裕、指山>
- 4.5 第 61 回 日本産科婦人科学会学術講演会(京都) 参加<院長>
- 4.7 第 121 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院

行事一覧(9)

- 2009 4.10 第 29 回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加<山路、平松、工藤由、佐土原、西郡、足立小、越名、佐藤久、佐藤晶、熊迫、長木、川村、岡田、井澤、松元、二宮、越光、斎高、後藤裕、指山、上野、河邊、院長>
「体外受精成功三十余年後の今日考えること」
(生殖バイオロジー 東京シンポジウム代表 鈴木秋悦先生)
- 4.11 日本哺乳動物卵子学会常任理事会(東京) 参加<院長>
- 4.19 ISIVF 15th World Congress on In Vitro Fertilization &
4th World Congress on In Vitro Maturation (Geneva)
A PART Session Symposium3 「ART for Fertility Preservation」 座長：院長
発表：「The current approach to oocytes vitrification for cancer patients in Japan」(院長)
ポスター発表：「Evaluation of serum Anti-Mullerian hormone (AMH) level in the IVF」
(長木美幸)
「Infertility patient's mental health condition using the Cornell Medical Index」
(上野桂子)
「Clinical efficacy of a novel evaluation method with measurement of embryo respiration activity using a scanning electrochemical microscopy」(院長)
- 4.25 第 5 回 九州産婦人科内視鏡手術懇話会(福岡) 参加<熊迫、指山、河邊>
発表：「卵管采の大きさ、卵管口の位置と妊娠について」(院長)
- 4.26 第 66 回 日本生殖医学会九州支部会(福岡) 参加<足立小、越名、佐藤久、指山、河邊、院長>
第 1 群「心理・看護(1)」座長：上野桂子
発表：「精子頭部の空胞と精子 DNA 断片化に関する検討」(城戸京子)
「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(熊迫陽子)
「ART 施設におけるサポートグループの看護師の役割」(松元恵利子)
「治療継続のサポートのあり方」～初診から半年以内～」(関こずえ)
- 4.28 院内全体研修：教育チェックリスト運用に関して(担当：教育・推進委員会)
5.1 新職員 阿南志保さん(看護部)
5.2 第 144 回 体外受精教室 参加者 44 名 参加<阿南、川村、井澤、岡田、斎高>
5.5 第 122 回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院
5.8 第 7 回 日本哺乳動物卵子学会培地開発委員会(東京) 参加<院長>
5.8 第 50 回 日本哺乳動物卵子学会(東京)
一般演題「ART(5) ICSI」座長：院長
発表：「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への臨床的有用性」(熊迫陽子)(学術奨励賞受賞)
「IVF における血清 AMH 値の検討」(長木美幸)
- 5.16 第 40 回 新患教室
5.16 第 39 回 ガーネットサークル
5.19 ISO9001 マネジメントレビュー
5.23 第 145 回 体外受精教室
5.23 第 3 期・第 4 期・第 5 期合同オリーブの会
5.25 福井大学医学部(福井)医学科アドバンストコース講義 講師<院長>
5.27 大分県立看護科学大学講義
講義：「不妊症講座」(院長)
5.30 第 1 回 JISART 心理教育セミナー(東京) 参加<上野、院長>
5.30 第 2 回 JISART 事務教育セミナー(東京) 参加<足立小、越名>
5.30 第 2 回 JISART ラボ教育セミナー(東京) 参加<佐藤晶、城戸>
5.30 第 6 回 JISART 看護教育セミナー(東京) 参加<後藤裕、篠田>
5.30 第 27 回 JISART 理事会(東京) 参加<院長>

行事一覧(10)

- 2009 5.31 第7回 JISARTシンポジウム(東京) 参加<足立小、越名、佐藤晶、城戸、後藤裕、篠田、上野>
シンポジウム「不妊治療における当院のこだわり」発表：「胚の呼吸量」(院長)
6.6 第38回『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座(大分・トキハ会館)
講師<指山(看護師長)、上野(臨床心理士)、院長>
6.7 第16回 セント・ルカセミナー開催予定
講師 森崇英先生<京都大学名誉教授、NPO法人生殖再生医学アカデミア 理事長>
「生殖細胞造成法の原理と倫理」
講師 佐藤英明先生<東北大学大学院農学研究科 教授>
「アニマルテクノロジーの現在と未来」
講師 有馬隆博先生<東北大学未来医工学治療開発センター 准教授>
「エピゲノム解析技術を応用したヒト生殖医療へのアプローチ
～ARTの安全性評価について～」
講師 荒木康久先生<高度生殖医療技術研究所 所長>
「臨床とラボ業務から学ぶこと」
講師 岡本祐子先生<広島大学大学院教育学研究科心理学講座臨床心理学研究室 教授>
「子どもに恵まれないことの心理臨床～「予期せぬ人生の危機」をどう受けとめるか～」
講師 辻英美先生<NPO法人Fine～現在・過去・未来の不妊体験者を支援する会～
Fineピア・カウンセラー>
「不妊と向き合うために必要な力～Fineピア・カウンセラーの活動から～」
6.9 第123回 聖書の学び 日本福音ルーテル大分教会 野村陽一牧師先生ご来院予定
6.14 平成21年度日本産科婦人科学会大分地方部会・大分県産婦人科医会総会 参加予定<院長>
6.20 JISART会議(東京) 参加予定<院長>
6.27 第21回 大分内視鏡外科研究会 参加予定<院長>
7.5 茨城県不妊専門相談センター事業市民公開講座(茨城) 講演<院長>
7.26 第8回生殖バイオロジー東京シンポジウム(東京)
Session4：鈴木セミナー&ディスカッション「ARTの安全性について」座長：院長
8.6 第28回 JISART理事会(京都) 参加予定<院長>
8.6 第27回 日本受精着床学会総会・学術講演会(京都)参加予定
発表予定：「ヒト未熟卵体外成熟培養(IVM)の妊娠率と出生児のメチル化インプリントの評価」
(佐藤晶子)
「精子頭部の空胞と精子DNA断片化に関する検討」(城戸京子)
「走査型電気化学顕微鏡を用いた胚品質評価の選択的単一胚移植(eSET)への
臨床的有用性」(熊迫陽子)
「ART施設におけるサポートグループの看護師の役割」(松元恵利子)
「治療継続のサポートのあり方」～初診から半年以内～(関こずえ)
「治療終結期の意思決定に対する患者の心理～「治療終結を決意した元患者を囲む会」
の語りから～」(上野桂子)
「非配偶者間生殖医療(エッグシェアリング)についての意識調査」(院長)
9.3 第49回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(高知)参加予定
10.2 第30回 大分市医師会産婦人科～内分泌・不妊・代謝～懇話会 参加予定
10.17 65th Annual Meeting of American Society for Reproductive Medicine (Atlanta)参加予定
11.21 第54回 日本生殖医学会総会・学術講演会(石川)参加予定
シンポジウムI「がん患者と生殖医療」座長：院長

論文一覧

- 2008 「Evaluating the quality of human embryos with a measurement of oxygen consumption by scanning electrochemical microscopy」（院長）J.Mamm.Ova.Res., 25(1) : 2-7, 2008
「着床前診断におけるバイオプシーの注意点—割球サイズと核の有無の関係—」（大津英子）
J.Mamm.Ova.Res., 25(2) : 117-118, 2008
「ゲノムインプリントィングと生殖補助医療(ART)～当院での研究紹介」（佐藤晶子）
J.Mamm.Ova.Res., 25(2) : 119-120, 2008
- 2009 「The Efficacy of the Transfer of Twice Frozen-Thawed Embryos with Vitrification Method」
（熊迫陽子）Fertility and Sterility, 91(2) : 383-386, 2009
「ロバートソン転座保因者における着床前診断」（大津英子）
日本受精着床学会雑誌 26(1) : 320-322, 2009

著書(共著)一覧

- 2008 「採卵法—私はこうしている 3」（院長）『臨床婦人科産科』第 62 卷 7 号（医学書院）
「ART と心理的援助」（院長）『産科と婦人科』第 75 卷 10 号（診断と治療社）
「不妊治療の終結における患者サポートについての検討—「妊娠に至らず治療終結を決意した元患者を囲む会」を開催して—」（上野桂子）『産婦人科の実際』第 57 卷 9 号（金原出版）
「生殖医療と心理カウンセリング」（上野桂子）『医療現場のコミュニケーション』（あいり出版）
「電気化学的呼吸能計測によるヒト胚のクオリティ評価」（小池恵）
『産婦人科の実際』第 57 卷 2 号（金原出版）
- 2009 「生殖補助医療における多胎妊娠とその予防」（院長）『Pharma Medica』2009 年 5 月号
（メディカルレビュー社）（掲載予定）
「PGD」（院長）『産婦人科の実際 不妊治療マニュアル』（金原出版株式会社）（執筆中）

院內活動

セント・ルカ産婦人科主催講演および活動説明

セント・ルカセミナー

開催頻度：1回／1年

セント・ルカ産婦人科開院記念行事として、毎年国内外から、著名な先生方をお招きし、当院多目的ホールにてシンポジウムを行っている。

内容は、生殖補助医療の最新技術の講演から胚培養士の話題や、臨床心理士による心のお話等多岐に渡る内容で喜ばれている。セミナー開催にあたっては、企画・立案・運営までを全て当院で行っている。

2008年参加人数：72名

『赤ちゃん～今ならきっと授かる～』講座

開催頻度：1回／3ヶ月

(不妊検査・治療についての説明会。これから治療を受けようとしている方や、初診後間もない患者さんが対象)

広く不妊治療を知ってもらう目的で、3ヶ月に1度院外の会場で行い、参加者の方が、ゆったり、リラックスしていただけるように、コーヒーとケーキを用意している。スライドを多用し、院長が1時間程詳しく説明をした後、不妊治療に協力的な泌尿器科の先生に、男性不妊の治療説明などをしていただいている。2005年からは臨床心理士(生殖心理カウンセラー)による心のお話、2006年からは看護師長による治療内容等の説明も行っている。当院OG(当院で治療後赤ちゃんを授かり出産へと至った方)のお話も30分程聞く事ができる。OG自身の治療歴から始まり、治療中に立ちはだかる大きな壁をどうやって越えたのか、心の中で日々大きくなる悩みやストレスに対しての対処の仕方など、患者さんの気持ちで参加者にお話ができるため好評である。

2008年のべ参加人数：343名

ガーネットサークル

開催頻度：1回／3ヶ月

(治療中の患者さんが、治療・妊娠・出産経験者に直接話を聞いて、お話しできる会)

当院で治療し、出産へと至った方にお願いをして、現在治療中の患者さんとの交流の場を設けている。テーマはその都度異なっているが、同じ治療段階・年齢で参加してもらえるよう心がけている。経験者の話を聞く事により、患者さんの視野を広げ、悩んでいるのは自分ひとりではないのだということの再認識もできる貴重な会である。

サークル名の由来は、ガーネットの和名「ざくろ石」からきている。ざくろは風水では子宝に恵まれるという意味を持っているので、全ての患者さんが子宝に恵まれる事を祈って、ガーネットサークルと名づけた。

2008年のべ参加人数：27名

オリーブの会(第1～5期)

開催頻度：1回／1ヶ月～2ヶ月

(体外受精をしている40歳以上の患者さんの集い)

治療を進めていく上で、焦りやストレスを感じている不妊患者さんが多い。その上、治療に対するストレスだけでなく年齢的な焦りと直面した患者さんも近年増加している。このような患者さんへのサポートの必要性を感じ、2001年に第1期が立ち上げられた。臨床心理士と看護師を交えてお茶を楽しみながらリラックスした自由な話し合いの場を設けている。現在、第3期～第5期が活動中である。

2008年のべ参加人数：57名

ご夫婦二人だけの人生を選ばれた元患者さんを囲む会

開催頻度：1回／1年

以前不妊治療をしていた方(現在はご夫婦だけの生活を選ばれた方)に、現在、不妊治療をしている患者さんに対して、当時の治療や現在の生活についてのお話をしていただく会。

体外受精教室

開催頻度：1回／1ヶ月
(ARTにすすむ患者さんへの説明会)

初めて体外受精を受けられる患者さん向けに、体外受精の治療過程や、体外受精前後の体の変化など、院長が約4時間程度かけて分かりやすく説明している。スライドを多用し、写真や画像を使用することにより、より分かりやすい内容となっている。ほとんどの患者さんがご夫婦で参加されるため、夫婦とも同じ目線で体外受精について考えることができ、その後の治療にも役立っている。

2008年のべ参加人数：574名

新患教室

開催頻度：1回／1ヶ月
(主として初診から1ヶ月以内の患者さんが対象)

当院の多目的ホールにて、院長が3時間程初診時の検査から体外受精までを詳しく説明している。2006年からは看護師によるお話をも行っている。早い時期に夫婦で参加する為、治療の理解が深まり、その後の治療にも役立っている。

2008年のべ参加人数：506名

新患オリエンテーション

開催頻度：初診時

初診時、診察終了後に主任クラスの看護師が行っている。1時間程かけて、写真や資料を使い、患者さんへ病状説明、今後の治療のすすみ方や費用面での説明をしている。

院長相談

開催頻度：毎週月・水・金の18:00～(予約制)

普段の診療で聞けなかった事や、なんとなく疑問に思っていることを、他の患者さんを気にすることなく院長に相談できる。理解できるまで、分かりやすく説明が聞けるので、患者さんに好評である。

心理専門相談室

開催頻度：毎週火・金・土の午前中(予約制)
2001年より、専門の臨床心理士による、きめ細やかな相談業務が無料で行われている。患者さんが抱える深刻な悩みを、幅広く受け止められるよう努めている。

なんでも相談

看護部

開催頻度：月・水・金の14:00～(予約制)
(主任クラスの看護師による相談)

不妊という悩みを抱えた患者さんを支える為に教育された看護スタッフにより行われている。患者さんが抱えているストレスや悩み、治療についての質問など、なんでも相談できる場として設けている。

ラボ

開催頻度：毎日11:00～12:00(予約制)
(胚培養士資格保持者による相談)

精液検査、IUI(人工授精)、精子凍結、胚凍結、体外受精に関する質問を相談できる場として設けている。

院内研修

開催頻度：毎週火曜日午後

毎週火曜日の 13:30～17:30 の 4 時間かけて、職員全員を集めての院内研修およびミーティングを行っている。培養室・検査室より、研究結果の発表や海外論文詳説、各部署より医療過誤につながりうる可能性のミスを報告し、今後の為に協議する「ヒヤリ・ハット」報告、また、その週に治療を受ける患者さんについての治療方針などを話し合っている。

このミーティングにより、全職員の意思統一が図れ、患者さんのケアにも役立っている。ミーティングの最後には「一人一言」の時間を設け、個人個人の考えを述べる機会を作っている。

ラボ朝ミーティング

開催頻度：毎朝 20 分程度

培養室の職員と院長とで培養中の胚の観察結果報告や、当日行われる採卵予定患者さんの検査結果報告、胚移植予定者報告を行っている。また、個人が担当している研究の途中経過報告や新しい研究の提案など活発な意見交換も行われている。

ラボミーティング

開催頻度：月 2 回午後半日

培養室の職員全員で、日常業務や各々の研究テーマ、基礎知識に関する勉強会を行ったり、SarahBase を用いたデータ整理に関する検討を行っている。

その他

開催頻度：隨時

外来相談係(看護部)

治療に関する質問や、今後の治療内容についての説明など、15 分程度の相談を面談方式で行っている。

腹腔鏡検査前の説明(看護部)

手術前検査終了後、腹腔鏡検査を受けられる患者さんへ、個別に手術入院の説明を行う。

開腹手術前の説明(看護部)

手術前検査終了後、開腹手術を受けられる患者さんへ、個別に手術入院の説明を行う。

手術前説明(院長)

手術の内容と進め方について説明を行う。

手術後説明(院長)

手術時のビデオを見ながら、手術内容や予後の説明、今後の治療方針等の説明を行う。

ART オリエンテーション(看護部)

体外受精に入る前の患者さんに、今後の治療の流れを把握していただくため、体外受精の説明や治療スケジュールの説明を行う。

ART 結果説明(1) (ラボ：胚培養士資格保持者)

胚移植直前に、その周期での卵子、精子の状態や、培養した胚の説明等を行う。

ART 結果説明(2) (看護部)

妊娠判定チェック時に、判定結果について個別に説明を行い、陰性反応の場合は精神的サポートを行う。

ART 結果説明(3) (ラボ：胚培養士資格保持者)

採卵や凍結胚融解後、移植できなかった場合に、その周期の卵子、精子、胚の状態や、移植できなかつた理由等を説明する。

スタッフ配置

院 長 宇津宮隆史

医 師 河邊史子、伊東裕子

培養室・検査室

** 大津英子、長木美幸、熊迫陽子、後藤香里、城戸京子、
* 佐藤晶子、小池 恵、佐藤久子

**:日本哺乳動物卵子学会および日本生殖医学会認定
生殖補助医療管理胚培養士
*:日本哺乳動物卵子学会認定生殖補助医療胚培養士
④:日本生殖医療心理カウンセリング学会認定不妊相談士

看護部

指山実千代、篠田多加子、関こずえ、後藤裕子、
赤嶺佳枝、越光直子、河野絢子、工藤美子、斎高美穂、
二宮 瞳、松元恵利子、足立直美、三重野直美、
井澤里砂、深田留美、岡田清美、川村智恵、阿南志保

心理専門相談室

上野桂子(臨床心理士・生殖心理カウンセラー)

総務部

宇津宮富美子

受付

越名久美、足立小百合、西郡朝美、佐土原香織

情報処理室

工藤由香、平松里美、山路美和

厨房

矢野千恵美、別所かおり

病院概要

名 称	医療法人セント・ルカ セント・ルカ産婦人科 セント・ルカ生殖医療研究所		
開設年月日	1992 年 6 月 3 日		
住 所	〒870-0947 大分市津守富岡 5 組 TEL 097-568-6060 FAX 097-568-6299 E-mail st-luke@oct-net.ne.jp http://www.st-luke.jp/ http://www.st-luke.jp/imode.htm (携帯電話用)		
許可病床数	13 床		
職 員 数	総数 40 名 常勤医 1 名 臨床心理士 1 名 非常勤医 2 名 総務部 1 名(兼任) 培養室 5 名 受付 4 名 検査室 3 名 情報処理室 3 名 看護師 11 名 調理士 2 名 准看護師 7 名 栄養士 1 名		
診 療 時 間	月・水・金: 8:30~11:30 17:00~18:30(要予約) 火・木・土: 8:30~11:30 (祭日を除く)		

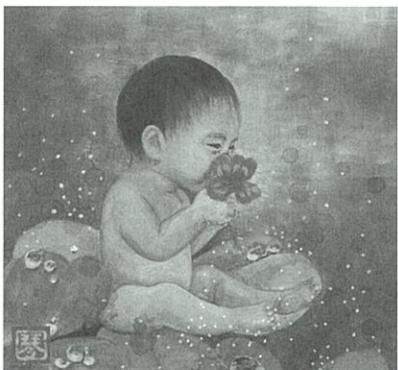


<本年報の集計も SarahBase を用いました>

臨床データ管理・医学統計解析ソフト
さらに機能が充実しました。

Sarah Base

Medical & Statistical Data Base Ver. 2.0
Windows98/Me/2000/XP



データ蓄積・集計になくてはならない偉大な味方のSarahBaseがさらにパワーアップしました。タッチパネルを導入することにより、データが発生した場所で初心者でも簡単にデータ蓄積ができ、記帳する手間と時間を節約できます。さらに、各機能を強化することにより、ラボスタッフの強力な味方になりました。詳細はお問い合わせください。

きっとご満足いただけるはずです。

- 製品構成 SarahBase診療支援/データ排出/統計解析/項目管理作成ツール/
 入力画面作成ツール/検査結果報告取込(オプション)/
 レセコン頭書情報取込(オプション) レセコン診療情報取込(オプション)/
 生殖医学臨床実施成績一覧表の集計・印刷(オプション)/
 新機能:データ入力チェック・簡易集計等のマクロ言語ツール(仮称)
 備品類メンテナンスアラーム(オプション)
- 動作環境CPU: Pentium II 350MHz以上(推奨Pentium III 450MHzクラス以上)
 OS: Windows 98/Me/2000/XP メモリ: 128MB以上 ハードディスク空き容量: 100MB以上

(有)メディテック・ルカ 〒870-0947 大分市津守富岡5組セント・ルカ産婦人科内
TEL/FAX (097)554-8567
E-mail mt-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

2008年度年報

2009年6月 発行

発 行： 医療法人セント・ルカ産婦人科
セント・ルカ生殖医療研究所

編 集： 宇津宮 隆史
〒870-0947 大分市津守富岡5組
Tel 097-568-6060
Fax 097-568-6299
E-mail st-luke@oct-net.ne.jp
<http://www.st-luke.jp/>

